

百圓以下ノ罰金ニ處ス

遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條 第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 懈怠故意ヲ問ハス

第七十一條 第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條 郵便封皮葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以上

ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 已レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ

受取人ニ交付シ及ヒ其情ヲ知テ之ヲ受

ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他

人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加

フ

第二百三十六條 疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモ

ノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處

六

第二百三十七條 有税ヲ以テ免税トシ其他詐偽ヲ以テ郵便税ヲ免レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自テ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物ノ未納税又ハ不足税ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十八條 不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條 驛遞總官ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ驛遞局認可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五十圓

以下ノ罰金ニ處ス

郵便物運送ニ使用セザル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタル亦同シ

第二百四十條 未納税又ハ不足税及ヒ別配達料解船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徴収ズヘキ郵便税別配達料解船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ徴収セサルトキ亦同シ

第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未ク消印ヲナサハル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜

ノ本條ニ照シテ處斷ス

第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替料及爲替料ヲ領収セスシテ爲替證書振出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

驛遞局貯金ノ事務ヲ奉スルモノ預ケ金ヲ領収セスシテ貯金通帳ニ預ケ金ノ記入ヲナシ又ハ拂戻證書ヲ受取スシテ貯金ヲ拂渡シタルトキ亦同シ

第二百四十三條 郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ僞ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノ

ノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十六條 郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十七條 渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遅緩シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

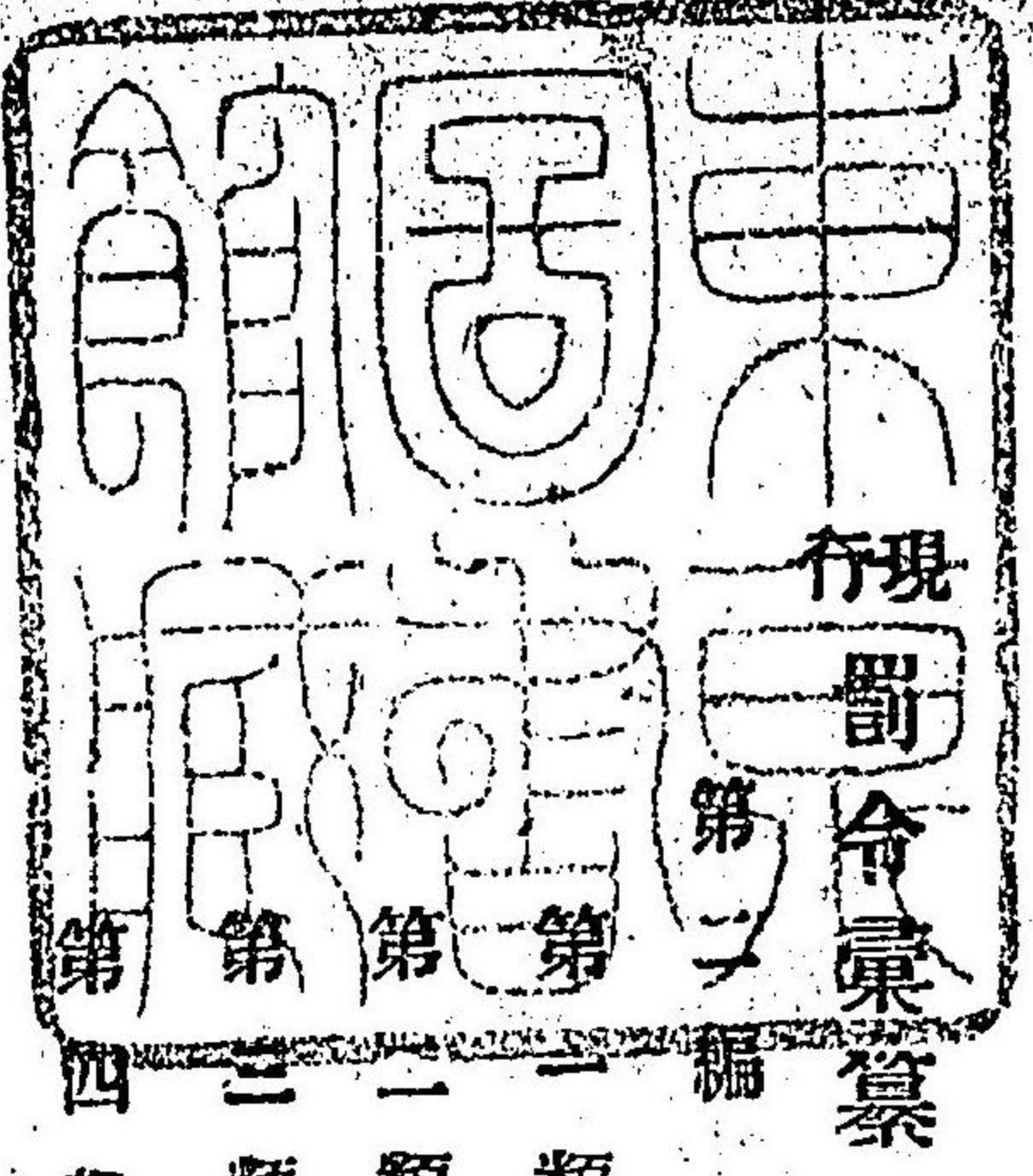
第二百四十八條 第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百四十九條 第二百三十條第二百三十三條第二百

三十七條 第二百四十一條 第二百四十二條 第二百四十三條
 三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ
 六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
 第二百五十條 本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法
 ニ據テ處斷ス

正誤表
 丁數 行目誤 正
 丁數 行目誤 正

八	六	手續	手續	六十五	三	其數	員數
十三	四	若及ヒ	者及ヒ	七十五	末	成ハ	或ハ
廿一	十三	二	涉リ	七十八	六	運據	運搬
三十	五	圖書	圖書	八十一	四	其他	其他
三十六	八	知知事	府知事	八十四	六	所持	所行
三十七	末	記者	著者	九十	三	算	等
四十六	十二	第五四條	第十四條	九十五	初	度野衝	度量衡
四十九	四	尙年	何年	九十六	九	下度	下渡
五十一	五	但昨八年	但八年	九十七	十	下度	下渡
五十二	末	版離	版離	九十八	六	下度	下渡
五十三	五	厚	原	全	九	番号	番號
全	七	度尤	度	百	三	見評	見計
五十五	二	地方チ	地方應ヲ	百十九	二	チ戸堀	ヨ堀
五十七	二	乙第三十一	乙第百三十一	百二十一	二	二月	五月
六十	三	著譯	著譯	百四十	一	物貼付	物ニ貼付
全	全	(何冊之内)	(全何冊之内)	全	七	科納濟料ノ	料納濟ノ
全	五	御局	御届	百八十八	十	五年以上	五年以下
全	全	板離	板權	百五十七	七	賃配達及	賃及配達
全	七	今般	今般	百五十八	八	謄印	調印
六十一	初	銃砲	銃砲刀劍	百九十二	二	料及	金及



現行
罰令彙纂

營業及公務收稅ニ關スル取締規則

第一類	總則	一丁
第二類	新聞	同丁
第三類	寫真	五丁
第四類	坑物	二十三丁
第五類	賣藥	二十七丁
第六類	毒藥劇藥	五十五丁
第七類	價造藥品	九十九丁
第八類	鳥獸獵	百二十一丁
第九類	石油取締	百二十五丁
第十類	牛馬賣買規則	百四十九丁
第十一類	徵兵令	百五十七丁
		百六十七丁

第十二類	代書	第三編	
第十三類	証人	出ス	
第十四類	証券印紙稅規則		二百二十五丁
第十五類	酒造稅規則		二百七十九丁
第十六類	醫藥稅規則		三百十五丁
第十七類	船稅規則		三百二十一丁
第十八類	車稅規則		三百五十九丁
第十九類	煙艸稅則		三百七十三丁
第二十類	地券稅		四百〇〇三丁

現行 罰令彙纂

第二編 營業及公務收稅ニ關スル取締規則

第一類 總則

明治十四年二月十七日
 官第十四號布告

明治十年七月第五十三號布告地租徵收入期限ノ儀明治十四年分ヨリ左ノ通改定候條此旨布告候事

但市街地租ノ儀ハ從前ノ通タルヘシ

地租徵收期限

畑方及宅地山林原野牧場

一期 同該年八月卅一日ヨリ限

同

二期 同九月卅一日ヨリ限

田方

第一類

第一類ノ一

一

三期同 十一月十五日ヨ限

五分

同

四期同 十二月廿八日ヨ限

五分

大明 政治官 第五年 十二月廿八日ヨ限

課税ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ先ツ其旨ヲ申立課額ヲ上納シ領収證書ヲ添ヘ其翌日ヨリ六十日内ニ訴出ツヘシ
但納税期限前ニ訴出テ訴訟中ト雖モ其期限ニ至レハ課額ヲ上納スヘシ

右奉 勅旨布告候事

大明 政治官 第五年 八月十一日

醫師タル者醫業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止

若クハ禁止スルコトヲ得

但其事開業免許ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本項ニ準シテ處分スルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

明治 第五年 八月十一日

本年八月第三十九號公布ニ依リ今般内務卿ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付テハ自今醫師タル者醫業ニ關スル犯罪有之處斷致シ候節ハ其都度該宣告文謄本相添内務省へ通知候様可致此旨相達候事

第二類

新聞

明治十六年四月十日

新聞紙條例別冊ノ通改正ス

右奉 勅旨布告候事

新聞紙條例

第一條

新聞紙ヲ發行セントスル者ハ其發行所ノ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ時々ニ刷行スル雜誌雜報ノ類ハ皆此條例ニ依ル

第二條

新聞紙發行ノ願書ハ左ノ事項ヲ掲ケ持主若クハ社主ヨリ差出ス可シ

一 題號

第二條

第二類ノ一

二 記載ノ種目(政治法律農工商業等ノ類)
 三 刷行ノ定期又ハ無定期(毎日毎週毎月又ハ無定期ニシテ逐號發行スル者)

四 發行所及印刷所

五 持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ族籍身分氏名年齢住所

第三條

社長幹事其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラズ新聞紙ニ署名スル者ハ總テ持主社主ノ例ニ依ル

第四條

新聞紙ノ題號記載ノ種目又ハ持主社主ヲ變更セントスルキハ更ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准許ヲ受ク可シ

前項ノ外第二條ノ願書ニ掲ク可キ事項ニ於テ變更アルキハ七日以内ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツ可シ

第五條

持主若クハ社主死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルキハ假ニ持主社主ヲ定メテ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得但七日以内ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ内務卿ニ願出准許ヲ受ク可シ

第六條

編輯人印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第七條

内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス
 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ持主社主編輯人印刷人トナ

ルコトヲ得ス公權ヲ停止セラレ及ヒ演說ヲ禁止セラレタル者其停止禁止間亦同シ

第八條

新聞紙ノ發行ヲ願出ルトキハ保證トシテ左ノ金額ヲ納ム可シ但專ラ學術技術統計及官令又ハ物價報告ニ係ル者ハ此例ニ在ラス

東京ニ於テハ千圓

京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一月三回以下發行スル者ハ各前項ノ半額

第九條

保證金ハ持主若クハ社主ヨリ爲替方又ハ銀行ノ預手形或ハ時價ニ準シタル公債証書ヲ以テ管轄廳(東京府ハ警

視廳)ニ納ム可シ

新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ禁止セラレタルキハ保證金ヲ還付ス

第十條

新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルキハ其准許ノ効ヲ失フ者トス

刷行ノ定期ニ發行セサルトキハ七日以内ニ休業ノ旨ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツ可シ休業届出ノ日ヨリ五十日ヲ過テ再ヒ發行セサル者亦前項ニ同シ

無定期ノ新聞紙前號刷行ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサル者亦同シ

第十一條

新聞紙ハ每號ニ持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ氏名

并發行所ヲ記載ス可シ

第十二條

發行所ノ外ニ於テ發賣スル者ハ其發賣所及發賣人ノ氏名住所ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツ可シ

第十三條

新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳(東京府ハ警視廳)及本管始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ム可シ

第十四條

新聞紙ニ記載シタル事項治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル者ト認ムルトキハ内務卿ハ其發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第十五條

各地方(東京府ヲ除ク)ニ於テ發行スル新聞紙前條ニ觸ル

ル者ト認ムルトキハ府知事縣令ハ其發行ヲ停止シ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フ可シ

第十六條

新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止シタルトキハ内務卿ハ其新聞紙ヲ差押ヘ又ハ發賣ヲ禁シ其情重キ者ハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得
府知事縣令ニ於テ停止ヲ命シタルトキハ其新聞紙ヲ差押ヘ及發賣ヲ禁スルコトヲ得ルモ内務卿ノ指揮ニ非サレハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得ス

第十七條

一人又ハ一社ニシテ數個ノ新聞紙ヲ發行スル者一個ノ新聞紙ヲ停止セラレタルトキハ其停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス

第十八條

新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ持主社主編輯人印刷人及筆者譯者ハ共犯ヲ以テ論ス

第十九條

新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ其情狀ニ因リ裁判官ニ於テ犯罪ニ係ル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得其告訴告發ヲ爲スニ際シ豫審判事檢察官警察官ハ裁判確定ニ至ル迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十條

裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セズ又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ可シ仍ホ足ラサルトキハ刑法第二十七條及第四十七條ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ持主若クハ社主ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ通知ヲ得タル日ヨリ七日以内ニ其欠額ヲ納完ス可シ若シ納完セサルトキハ其新聞紙發行准許ノ効ヲ失フ者トス

第二十一條

准許ヲ得ズ又ハ准許ノ効ヲ失ヒタル後私ニ新聞紙ヲ發行スル者ハ持主社主編輯人印刷人各六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ其發行シタル新聞紙ヲ沒收ス其禁止停止ノ處分ヲ犯シ及第十七條ニ違テ發行シタル者亦同シ

第二十二條

詐偽ノ願書若クハ届書ヲ差出シタル者及第四條第一項第五條ニ違フ者ハ持主若クハ社主一月以上一年以下ノ

輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス編輯人印刷人情ヲ知ル者亦同ク處斷ス
前項ノ場合ニ於テ内務卿ハ其新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第二十三條

第四條第二項及第十條第二項第十一條第十二條第十三條ニ違フ者ハ持主若クハ社主拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其第十一條ニ違フ者ハ編輯人印刷人亦同ク處斷ス

第二十四條

禁止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ禁止ノ日ヨリ二年間持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以

上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

停止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ停止間他ノ新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第二十五條

沒収若クハ差押ノ處分ヲ受ケ又ハ發賣ヲ禁止セラレタル後其新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ發賣者頒布者受賣者ヲ問ハス各十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條

新聞紙ニ記載シタル事項ハ其原稿ヲ刷行ノ日ヨリ三週間保存シ官署ノ訊問ニ備フ可シ違フ者ハ編輯人拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條

新聞紙ニ記載シタル事項ニ付官署ヨリ其出所ノ訊問ヲ受ケタルトキハ之ヲ證明スヘシ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十八條

新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ニ於テ直ニ宣告ノ全文ヲ掲載ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十九條

新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付關係アル者ヨリ正誤ヲ求メタルトキハ其求メテ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ別ニ一欄ヲ設ケ正誤ノ文ヲ掲載シ又ハ正誤ス可シ違フ者ハ罰前條ニ同シ但其正誤ノ趣意法律ニ觸ル者及之ヲ求メタル者ノ氏名詳ナラサルトキハ

此限ニ在ラス

第三十條

他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其新聞紙ニ正誤ヲ載セタルトキハ關係アル者ノ求メナシト雖モ其新聞紙ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ正誤ス可キコト總テ前條ノ例ニ依ル

第三十一條

式ニ依リ宣布セサル公文及上書建白請願書ハ當該官司ノ許可ヲ得タルニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其大意ヲ録シ若クハ草按ヲ掲載スルモ亦同シ

第三十二條

官省院ノ議事及府縣會ノ傍聽ヲ禁シタル議事ハ詳畧ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十三條

重罪輕罪ノ豫審ハ公判ニ付セサル以前ニ之ヲ記載スルコトヲ得ス裁判官審判ノ議事及傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辨論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十四條

陸軍卿海軍卿ハ特ニ命令ヲ下シテ軍隊軍艦ノ進退及一般ノ軍事ヲ記載スルコトヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情重キ者ハ印刷器ヲ沒収ス外務卿ハ外交上ノ事件ニ付特ニ命令ヲ下シテ記載ヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第三十五條

新聞紙ヲ以テ人ヲ教唆シ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法ノ例ニ依ル其教唆ニ止ル者ハ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第三十六條

刑法第二編第一章ノ刑ニ觸ル、者ハ印刷器ヲ沒収ス

第三十七條

政體ヲ變換シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタル者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ百圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其第三十五條ニ觸ル、者ハ重ニ從テ處斷ス

本條ヲ犯ス者ハ其印刷器ヲ沒収ス

第三十八條

成法ヲ誹毀シテ國民法ニ違フノ義ヲ亂ル者及顯ハニ刑
律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲ス者ハ一月以上
一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ
附加ス

第三十九條

猥褻ノ文辭圖畫及誹謗ヲ寓シタル戯畫ヲ掲載スルコト
ヲ得ス犯ス者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條

第二十九條ノ場合ニ於テ被害者ノ私事ニ係ル者ハ告訴
ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四十一條

此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪
俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十二條

外國ノ新聞紙及書籍ヲ譯出シ新聞紙ニ記載スル者亦此
條例ニ依ル

附則

現今發行ノ新聞紙ハ東京府下ハ此條例發布ノ日ヨリ其
他ノ地方ハ到達ノ日ヨリ三十日以内ニ此條例ニ從ヒ願
書及保證金ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ差出ス可シ若シ
期限内ニ差出サ、ルトキハ准許ノ効ヲ失フ者トス其願
書及保證金ヲ差出シタル者ハ引續キ發行スルコトヲ得

第三類 寫眞

明治九年六月十七日
第九十號布告

寫眞條例別紙之通相定候條此旨布告候事

寫眞條例

第一條 凡ソ人物山水其他ノ諸物象ヲ寫シテ專賣ヲ願ヒ出ル者ハ五年間專賣ノ權ヲ與フヘシ之ヲ寫眞版權ト稱ス

但之ヲ願ハサル者ハ別段届出ルニ及ハス

第二條 版權ヲ得タル寫眞ニハ必ス每葉寫主ノ標號及ヒ定價并ニ版權免許ノ年月ヲ記載スヘシ

第三條 版權ヲ得タル者ハ寫眞一版ニ付三葉ヲ納メ仍ホ免許料トシテ一版ニ付十二葉ノ定價ヲ納ムヘシ之ヲ納メサル前ニ發賣スルヲ許サス

第四條 出版條例第七條第十三條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條及第二十六條ハ寫眞版權ニ適用スヘシ

但出版條例第二十六條但書ノ手数料ハ一版ニ付六葉ノ定價ヲ納ムヘシ凡ソ願届等ノ手續モ總テ出版條例ニ依ルヘシ

第五條 凡ソ圖書ヲ寫眞スル者ハ雕刻出版ノ例ニ倣ヒ都テ出版條例ニ依ルヘシ

第六條 第三條ヲ犯シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ其現存ノ寫眞ヲ沒収シ壹圓ヨリ少カラス拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ仍ホ版權ヲ追棄スヘシ

第七條 他人ノ版權ヲ侵シ寫眞ヲ覆寫シ又ハ免許ノ名ヲ冒認シ及ヒ之ヲ發賣シ若クハ情ヲ知テ轉賣ス

ル者ハ現存ノ寫眞ヲ沒収シ二圓ヨリ少カラス二拾圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ原主ノ損害ヲ償ハシム

但原主ヨリ訴出ルニアラサレハ受理セス

第四類 坑物

明治六年七月廿九號 日本 政官 布告

今般鑛山其他諸坑業ノ規則別冊ノ通改定候ニ付テハ
凡坑物ニ關係ノ事件ハ工部省ニ於テ總管セシメ候條
自今金屬其外諸坑物營業ノ儀都テ同省へ可申立候此
旨布告候事

日本坑法

第一章 坑物

第一

正理ヲ以テ論スルキハ凡無機物タル者ハ生活ノ機
品都テ坑業ノ部分ニ屬ス此無機物品質ニ類ニ分ル
即第一類ハ有鑛質第二類ハ無鑛質アリ凡諸金屬ノ
天然本資ヲ以テ出ル者或ハ他ノ物質ニ合化シテ出

ル者ハ右第一類ニ屬ス燃質物山盪燐酸石灰美石玉
璞ノ類ハ右第二類ニ屬ス本條ハ總テ是ノ有坑物ト稱ス
坑等皆之ニ倣ヘ

第二

前ニ掲記セシ物類凡日本國中ニ於テ發見スル者ハ
都テ日本政府ノ所有ニシテ獨リ政府ノミコレヲ採
用スル分義ナリ

第三

築石土砂粘土其他建築耕作所用ノ物品ハ都テ地主
タル者ノ所有トスヘシ

第四

日本ノ民藉タル者ニ非サレハ試堀ヲ作シ坑區ヲ借
リ坑物ヲ採製スル事業ノ本主或ハ組合人ト成ル

ヲ得ス坑産ノ割合及利益ニ關係トス若シコレヲ犯ス
者ハ其業ニ屬スル所有物ヲ官ニ沒入シテ其業ヲ禁
示スヘシ

第二章 試堀

第五

試堀ヲ作サント欲スル者ハ鑛山寮ニ願出許可ヲ得
テ之ヲ行フヘシ
試堀ヲ行フ爲ニ必要ノ地面他人ニ屬セハ其償金ヲ
對談處分スヘシ
地主ニシテ自ラ試堀ヲ企ル者ハ衆ニ超テ許可ヲ得
ヘキ分義アリトス然レモ自ラ試堀ノ資本無クシテ
他人ノ舉ヲ拒ミ或ハ不當ノ償金ヲ貪ハ鑛山寮或ハ
地方官ニテ正價ヲ裁決シテ其地ヲ買上クヘシ

第六

試堀ニテ坑物發見スルキハ直ニ見本ヲ添テ鑛山寮ニ届出ツヘシ且試堀中ハ一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ノ行業日數及工數并產鑛量ヲ開報スヘシ凡產鑛ハ借區券ヲ第十款得ル後ニ非サレハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ沒收スヘシ

第七

試堀ハ都テ一年間ヲ以テ期限トス若シ延期ヲ願出ルニ實ニ未タ開坑ヲ決スルヲ得サル事理判然タラハ之ヲ許可スルヲ有ヘシ

第八

試堀人廢業スルキハ第二十七款廢坑則ノ如クスヘシ此時ニ產鑛ハ鑛山寮ノ許可ヲ得テ賣却シ第三十

一款ノ坑物稅ヲ納ムヘシ
試堀人損失ニ因テ廢業スル事實判然タルニ於テハ坑物稅ヲ免スルヲ有ルヘシ

第三章 借區開坑

第九

開坑スル者ハ先ツ坑區ヲ得ヘシ坑區ノ廣狹ハ其適實ナル起業ノ目途ニ應シテ之ヲ得セシム可シ
有鑛質坑ヲ開ク者ハ必ス製鑛ノ業ヲ兼テ可シ凡借區開坑ハ鑛山寮ニ願出ヘシ此願書ニ其得ント欲スル坑區ノ測量圖ヲ添テ出ス可シ
試堀ヲ經テ借區願出ル者ハ其坑區中別ニ地主有リト雖モ之ヲ拒ムヲ得ス尤其處分ハ借區券ヲ得ルノ後廿二款ノ如クナルヘシ

第十

願出ノ借區ハ鑛山寮官員之ヲ驗測シ標石ヲ植テ境界ヲ識別スヘシ
巡回官員歸報之後許可スヘキハ工部全權ノ證印ヲ以テ借區券ヲ附與スヘシ

第十一

凡借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期トス終ルニ至テ繼年期ハ新ニ願出スヘシ

第四章 通洞

第十二

通洞ハ坑道ハ縱横等ノ小坑ヲ穿ツヲ通常トス別ノ大坑ヲ穿ツト云フ之我カ借區中ニ非スト雖也之ヲ企ルコヲ得ヘシ此時ハ願書ニ目論見明細圖ヲ添テ鑛山

寮へ出スヘシ若シ其通洞他人ノ借區ニ亘涉スヘキハ豫メ其借區人ニモ報知ス可シ

通洞ハ高九尺幅六尺ヨリ減スヘカラス是ヨリ小ナルハ通洞トセス

第十三

願出ノ通洞ハ鑛山寮官員實地勘踏歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ證印ヲ以テ免狀ヲ附與スヘシ免狀ヲ得ルノ後若シ目論見圖ニ違ヒ方向ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮セント欲セハ更ニ鑛山寮へ願出許可ヲ得テ之ヲ行フ可シ

第十四

借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クヘキ資本有ニ非サレハ我區中ヲリト雖也他人ノ舉ヲ拒ムヘカラス

通洞保全ノ爲メニ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ一間半以内ニ堀入ルヘカラス然レモ其跡ニ自己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患無ラシムル者ハ此限ニ非ス
是ハ抗物ヲ得ル時ノカ爲ニ一旦土石ヲ掘出ス時ノ如キ是也

第十五

通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルコトアラハ通洞發起人ニ其謝金ヲ出スヘシ若シ之ニ就テ對談穩當ナラズハ鑛山寮ヨリ處斷スヘシ

通洞ヲ開ク者ハ借區人未定之所ニ於テハ通洞ノ周圍内ヨリ出ルタケノ鑛石ヲ取ルコトヲ得ヘシ他人ノ借區中ニ於テハ此鑛石ノ一半ヲ借區人ニ歸スヘシ

第五章

坑業

第十六

都テ坑業ニ付テハ抗物ヲ坑中支柱ノ爲ニ存ス可キ所ノ外ハ成ル丈坑利ヲ遺スコトナク取出スヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用ヲ害スルモノハ其輕重ニ隨テ罰金ヲ徵ス可シ

第十七

試堀開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鐵造河流及道路ノ如キ其害ヲ受可キ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以内ノ地ヲ避クヘシ
 凡場所ノ主タル者應諾スルニ非スシテ此ヲ犯ス者有レハ城堡其律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スル一倍ノ費額ヲ取テ本費ハ其主ニ附與スヘシ

第十八

凡初發許可ヲ得シ抗物ノ外ニ別種ノ抗物ヲ見出ス

者ハ速ニ鑛山寮ニ報知スヘシ之ヲ背ク者ハ其坑物
又ハ代價ヲ取揚ヘシ

如斯類ノ借區稅ハ第三十一條ニ照準シ高價ナル方
ノ例ヲ以テ納ムヘシ

第十九

開坑人ハ歲々一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ニ産出
セル坑物量其賣出高並代價及行業日數工數ヲ具記
シテ鑛山寮ニ報知スヘシ

有鑛質ハ坑産量並製出量且製出セシ混淆物二種以
上ノ金屬ヲ含有スルハ其試験ノ割合ヲモ具記シテ
賣出高以下都テ前ノ如クスヘシ

右數量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五十圓トス若シ
賣出高並代價ヲ減書スル者ハ其減書セシ高ノ三倍

ヲ徵收スヘシ

第二十

通例開坑又ハ廢鑛ヲ採製スルニモ一年間ノ事業ハ
地面五百坪ノ下ニ就テ壯健ナル一夫三百日ヲ以テ
成セル程ノ工數ヨリ減スヘカラス若シ之ニ背ク者
實ニ百方免レ難ク妨碍判然タルニ有ラスンハ其業
ヲ禁止スヘシ

第二十一

坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通シテ便利ニスヘシ且甲區
ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ地上ニ要路ヲ通セン
ヲテ求ムルニ於テハ不當ノ償金ヲ貪ル可ラス若シ
相對ヲ以テ決セスンハ鑛山寮ヨリ所斷スヘシ
右掘通シニ付テ出ル鑛石ハ其所ノ借區人ニ屬スヘ

第二十二

凡借區人ハ區上ニ於テ藏庫詰所作事場洗鑛所鑛鑛
所通路等其他坑業ニ必用ナル地面ハ地主タル者ニ
豫メ償金ヲ辨スヘシ若シ異論決セスシハ鑛山寮或
ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シ其地ヲ買取ル可シ

第二十三

總テ坑區ヨリ隣區ニ患害損場ヲ被ラシムルトキハ
之ヲ償フヘシ若シ償金決セスシハ鑛山寮ヨリ裁決
スヘシ

第二十四

凡借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ前以
テ雙方ヨリ鑛山寮ニ願出許可ヲ請フヘシ若シ之ヨ

第二十五

背ク者ハ其業ヲ禁止スヘシ
凡借年限終リ又ハ法ニ背ヒテ其業ヲ禁止セラレ或
ハ自ラ廢業スルニ至ル者有レハ都テ其借區ハ政府
ニ還復シ其事業ニ就テ如何ナル負債アリト雖モ總
テ其坑山ニハ關係セサル者トス此時ニ當テ地中ノ
結構ハ坑山ニ屬シテ政府ノ有タルヘシ
地上ノ營造ハ其主ノ取去ルニ任スト雖モ其跡ノ地
面ハ完全ニ修復ヲナスヘシ

第二十六

坑業人ハ其坑山地方ノ住民同様トス因テ其地方官
ノ諸法令ヲ遵守スヘシ

第六章 廢業

第二十七

坑業ヲ廢セシト欲スル者ハ堅坑ノ口ヲ掩ヒ又柵圍
ヒスヘシ鑛山寮ヨリ其堅坑ヲ當然ニ堅固ニセシヤ
且坑内ノ營繕完全存在スルヤヲ檢査スヘシ若シ疎
漏アラハ鑛山寮ニ於テ是ヲ繕治スヘキ費額ノ一倍
ヲ徵收スヘシ

第二十八

鑛山寮ヨリ疏水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハス之
カ爲ニ坑中廢没スルニ至ル者ハ其業ヲ禁止ス

第七章 製鑛所建築

第二十九

凡開坑人坑山外ノ場所ニテ有鑛質物ヲ製出セン爲
ニ建築スヘキモノアラハ先鑛山寮ニ許可ヲ請フヘ

第三十

已ニ製煉セシ鑛物ヲ精製荒金銅ヲ純金ニ粹銅ニ作リ山
云スル職業ノ者ハ起業ヲ鑛山寮ニ報知シ六ヶ月毎
ニ鑛量並製出品量等ヲ具記シ鑛山寮ニ開報スヘシ

第八章 稅納

第三十一

鐵ヲ除クノ外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面積五百
坪毎ニ一ケ年金壹圓ツ、借區稅トシテ毎年一月ニ
前一年分ヲ鑛山寮ニ納ムヘシ借區稅ハ地租鐵及ヒ
無鑛質ノ諸物品ヲ採取スル坑區ハ面五百坪ニ付前
條ノ半高ヲ納ムヘシ即金五十錢トス
廢坑ヲ採取スル坑區ハ面千坪ニ付常例ノ稅額ヲ納

ムヘシ
 開坑區面五百坪廢坑區面千坪トニ足サルモノハ總
 テ右面積ノ比例ニ隨テ納ムヘシ
 借區初年ノ區稅ハ月割ニテ納ムヘシ
 前書借區稅ノ外ニ採製セシ金屬及諸坑物ニ就テ代
 價百分ノ三ヨリ百分ノ二十迄テ坑物稅トシテ每歲
 一月七月兩度ニ鑛山寮ニ納ムヘシ

但稅額ノ儀ハ其鑛業ノ盛衰ニ隨ヒ鑛山寮ヨリ命
 スヘシ

第三十二

試堀開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸條款ニ記セル稅
 或ハ罰金償金等ヲ納メサルハ其業ニ屬スル所ノ運
 移スヘキモノ殘ラス鑛山寮ヨリ入札拂ニシテ代價

ノ中ヨリ不納高ヲ引去リ其殘金ハ之ヲ本人ニ還付
 スヘシ

第三十三

凡坑法ノ意旨ニ反ル過失有ル者ハ輕重ニ隨テ罰金
 ヲ命スヘシ若シ事業疎畧ニシテ人命ヲ失ハ、國律
 ヲ以テ論處スヘシ

右章款ニ記載セル方法ハ明治六年九月一日ヨリ施行
 スヘシ從前ノ法則及ヒ舊習等若シ此法ニ矛盾スル者
 ハ都テ廢タルヘシ

坑法附示

坑業及製鑛ノ業ヲ舉行スル者西洋ノ學術及工作ヲ
 用ヒソカ爲メ一定ノ給料ヲ以テ外國技術家ヲ雇入
 ル、カ如キハ我坑產損益及ヒ所有物ニ關係スル事

無キニ因テ坑法第四款ノ禁ニ觸レズ然レモ之ヲ雇
入ル、以前其職業給料及年限ヲ分明ニ記載シ其原
紙ヲ鑛山寮ニ送呈シテ結約ノ許可ヲ可請候事
書類式様

表面ニ 試堀願

某縣貫籍某國某郡某村某職業
某

試堀願

私儀某縣管下某國某地ニ於テ何鑛ヲ堀得ヘシ覺候
故先試堀仕度候間御聞届被下度奉願候以上

年號月日

某 印

某縣貫籍某國某郡某村某職業

前書願出之趣御聞届相成度候也

年號月日

某縣令某印

試堀人ニ與ル證

某縣某位置誰地ニ於テ某貫籍某職業某何鑛試堀願
之通聞届候尤日本坑法ニ違反致間鋪者也

年號月日

鑛山寮印

表面ニ 借區開坑願

某縣貫籍某國某郡某村某職業
某

借區開坑願

私儀某年月某地ニ於テ試堀相願候處何鑛發見イタ
又後來何破ニ付堀出候ニ付別紙圖面之場所ニ於テ

借區開坑被差許此段奉願候以上

某縣貫籍某國某郡某村某職業

某

印

前書願出之通御聞届相成度候也

某縣令某印

借區券

某年月日某地幾方面某貫籍某職業某某境界云々之場所ニ於テ別紙圖面之通十五ヶ年間借區開坑差許候尤日本坑法ヲ確奉可致者也

年號月日

工部全權某印

表面ニ通洞願

某縣貫籍某國某郡某村某職業

某

通洞願

私儀ハ疏水運鑛ノ爲或通洞堀通シ度右通洞別紙圖面ノ某場所ニ有之候尤通洞之地位ニ當リ候借區ノ主某ニ

報知仕置候右通洞堀方御聞届被下度奉願候以上

某縣貫籍某國某郡某村某職業

某

印

前書之通御聞届相成度候也

年號月日 某縣令某印

通洞券

某年月願出候某貫籍某職業某地ニ於テ別紙圖面之通通洞堀通候事差許候尤日本坑法ヲ確奉可致者也

年號月日 工部全權某印

大明政治官達 四年四月五日

鑛山開採ノ儀願出度盡ハ其地方官ニ於テ身元取調相應ノ仕法相立候分ハ伺ノ上御差誅相成相當ノ稅爲相納請負可申付候條願人有之候ハ、早々可申出事

明治七年十月十四日
太政官第百一十四號布告

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五十九號布告日本坑法ニ揭載ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ付假令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣約定等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候事

明治八年十一月十三日
太政官第百一十三號布告

明治六年七月第二百五十九號布告日本坑法第八章中ニ揭載有之候坑物稅收納ノ儀本年一月ヨリ當分ノ内相廢候條此旨布告候事

明治八年四月十二日
太政官第百一十五號布告

北海道坑物採製ノ儀ハ開拓使所轄ニ候條明治六年七月第二百五十九號布告日本坑法中鑛山寮ヲ開拓使工部全權ヲ開拓長官ト相心得同地方ニテ營業志望ノ者ハ都テ同使ニ願出此旨布告候事

明治七年六月三日
內務省第七百四拾壹號ヲ以府縣ニ達

昨明治六年第二百五拾九號公布日本坑法中第一章第三款ニ屬スル築石土砂粘土其他建築料作所用ノ諸品物及砥石硯石石炭石明礬石綿陶器製造土等元來坑物ニ屬スヘキ部分ト雖モ工部省ノ掌管セサルモノハ一切當省ニ於テ處分候條前年季請負或ハ冥加運上等各種ノ名義ヲ以テ營業仕候分共總テ別紙雛形ニ照シ取調來ル九月三十一日限リ無遲滯當省ニ差出可申此旨

相違候事

用紙美濃紙野紙

雛形

字何々山民官地産出

何國何郡

何村

一何々何異名何又ハ方言稱何々

何國何郡何村

税金何程

何人

但請負年季ノ有無及長短税納ノ名義

形色共

一質

何々

一凡何年頃ヨリ産出何年度廢業何年度ヨリ再興ノ譯

作用共

一功能

功能ト作用トノ別ハ假令ハ安房ニ産スル元名石ノ
 如キ其質軟弱コシテ能ク火氣ニ勝ユル之ヲ功能トシ
 ソノ能ク火氣ニ勝ユルヲ以テ火爐又ハ七輪等ニ作ル
 之ヲ作用トス其他煉化石ノ家屋ニ作ルハ作用ニシテ
 不朽價額セサルハ則功能ナリ混同セサル様記載スヘ
 キ事

- 一現今産出ノ多寡
 - 一現今所賣買相場
 - 一運輸津出ノ便否
 - 一輸出仕向ケノ土地
- 右表目ノ外何事ニ限ラス關係ノ件ハ無遺漏記載スヘシ
- 尤物品ニヨリ此雛形ニ據リカタキ類ハ適宜取調可成丈
- 精細ナルヲ要スヘシ

內明治七年七月五日
務省乙第四十六號ヲ以府縣へ達

今般各省用山之名義廢セラレ候ニ付テハ以後各省察
ヨリ官有山林ノ樹石需用ノ儀申聞候共總テ當省へ具
狀ノ上取計可申候此旨爲心得相達候事

內明治八年一月十日
務省乙第三號達

諸鑛山借區開坑試堀ノ儀ハ工部省ニテ處分シ鑛業需
用之爲メ土地貸渡之儀ハ當省ニテ處分候筈

工明治十二年十月廿八日
部省第十二號ヲ以テ布達

砂鑛並砂金稼行ノ者ハ日本坑法ニ基キ試堀借區開坑
ヲ許可シ來候處自今都テ試堀借區開坑ノ名稱相廢候
條該地所ノ名字等詳細ノ繪圖面相添採取ノ儀出願ス
ヘシ且從來既ニ試堀借區開坑ノ許可ヲ受居候者ハ採
取ニ願替假坑區券ハ返納スヘキ儀ト心得此旨布達

候事

太明治十五年八月九日
政治官第三十八號布告

明治六年七月第二百五十九號布告日本坑法第三章中第
九初項へ左ノ但書ヲ追加ス
但石炭坑ノ借區ハ一萬坪以上ニ限ルヘシ
右奉 勅旨布告候事

第五類 賣藥

大正十年一月二十日
政治官第七號布告

賣藥規則別冊ノ通り相定候條此旨布告候事
賣藥規則

第一章

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥
氷藥散藥煎藥等家方ヲ以テ合劑シ販賣スルモノヲ云
フ

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳
記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ヲ經由シテ內
務省ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 內務省ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ
藥品劇毒微毒ニ拘ハラズ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ

及ヒ毒藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スルモノ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持スル官許公文ノ寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添へ其管轄廳へ願出内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルキハ其由ヲ管轄廳へ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スルキハ必

ス之ヲ所持スヘシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五ケ年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スルキハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條 免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲グル處ノ有毒品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルベシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セララル、時ハ

其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス
 第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其存細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ
 第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換テ請フヘシ
 第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ免許鑑札ヲ改ムルニ及ハスト雖モ其由ヲ届出ツヘシ
 第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタル所ハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者及ヒ請賣者ハ左ノ通税金并鑑札料ヲ上納スヘシ
 賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一ケ年 金貳圓
 右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金貳拾錢
 賣藥請賣鑑札料 藥劑ノ方數ニ拘ハラヌ一枚 金貳拾錢
 賣藥行商鑑札料 藥劑ノ方數ニ拘ハラヌ一枚 金貳拾錢
 第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受クル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ
 第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限リ後半年分ハ翌年一月三十一日限リ鑑札料ハ其都度并ニ管轄廳ニ上納スヘシ
 第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以

後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ
半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有毒品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月
割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ
行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札
ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取
上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キ
鑑札ヲ以テ請買スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請
買セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ
没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科ノヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用方服
量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ
記載シ世人ヲ眩惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没
入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科
スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者ハ其製藥及ヒ賣
得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下
ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ニ贗造
シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑
一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取
上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以

上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ
 第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時
 ハ事業取組メ上相違ナキニ於テハ其實トシテ其罰金
 ノ半高ヲ與フヘシ

明治十年八月廿八日
 官報第八拾九號布告

本年一月第七號布告賣藥規則中第一條第五條第十四條
 左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥
 水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ效能書ヲ附シ販賣スル
 モノヲ云フ
 第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得
 ザルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ
 免許鑑札寫及ビ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其

管轄廳へ願出免許鑑札ヲ受ケ管轄廳ハ之ヲ內務省へ
 届出ヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續
 人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳へ鑑札
 名前書換ヲ請フヘシ

明治十一年九月十九日
 官報第貳拾七號布告

明治十年一月第七號布告賣藥規則中左ノ通改正候條此
 旨布告候事

第二條 其管轄廳ノ下ヲ經由シテ內務省ノ八字ヲ削
 ル

第三條 (內務省)ノ三字ヲ(管轄廳)ニ改メ(毒藥)ノ下ニ(劇
 藥)ノ二字ヲ加フ

第五條 免許鑑札ヲ受ノ下(ケ管轄廳)ハ之ヲ內務省へ

届出ノ十三字ヲ削リ(ク)ノ一字ヲ加フ

第十條第十九條但書(有毒)ヲ(有害)ニ改ム

明治十四年四月二十六日
太政官第二十六號布告

明治十年一月第七號布告賣藥規則第十六條及第二十三條中左ノ通刪除追加候條此旨布告候事

第十六條 賣藥營業者ノ下(及ヒ請賣者)ノ五字并(賣藥請賣鑑札料)(賣藥行商鑑札料)ノ二項刪除

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者ノ下(又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者)ノ三十八字追加

明治十年三月十二日
內務省第三拾二號達

府 縣

本年一月太政官第七號賣藥規則公布相成候ニ付テハ

左ノ手續書及書式雛形ニ照準取扱可申此旨相達候事

一 昨明治八年七月以降當省ニ於テ下附候賣藥鑑札ハ追テ相達候迄免許發賣共當分書替爲願出ニ不及規則公布後相渡候鑑札同様相心得ヘシ

一 前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘシ尤税金ノ儀ハ本年分ヨリ徴収スヘキコ付昨九年マデノ分ハ納メシムルコ及ハス

但鑑札料ハ總テ上納爲致定期納附ノ節勘定帳ニ其區分ヲナスヘシ

一 前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商業致シ居候分來ル四月三十日マデニ悉皆爲願出鑑札交附取計フヘシ

一 明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ營業鑑札

所持ノモノニ限り本年一月ヨリ六月迄ノ内廢業届出タルモノハ其税金月割ヲ以テ徴収スヘシ尤其譯勘定帳ニ明記スヘシ

一賣藥營業者并ニ請賣者免許看版ハ左式ノ通製セシムヘシ

堅三尺

寸法同上

免賣藥營業

田中

免賣藥請賣業

一税金并ニ營業鑑札料請賣鑑札料行商鑑札料ハ毎年二月八月ノ兩度一勘定帳限リハ一月七月三十一日限リ該地差立ヘシニ勘定帳相添ヘ大藏省租稅局ヘ納附スヘシ且同時ニ別ニ勘定帳一本ヲ製シ内務省ヘモ進達スベシ
一行商鑑札ハ各管廳ニ於テ雛形ノ通之ヲ製シ願人ニ下附スヘシ尤行商スル藥劑ハ其方名ヲ一々鑑札ニ記

載スヘシ

但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラズ營業者異ナル毎ニ鑑札ヲ別製シテ之ヲ渡スヘシ

一行商鑑札ヲ下附シタル分ハ其都度明細簿ニ登記シ置キ每半年分宛別ニ一本ヲ調製シ一月七月ノ兩度内務省ニ開申スヘシ
一行商鑑札製作費ハ豫備金ヲ以テ繰替置キ每半年分勘定帳ヲ製シ一月七月ノ兩度大藏省出納局ニ受取方申出ヘシ

一賣藥營業稅并諸鑑札料上納勘定帳雛形
明治何年七月ヨリ十二月マテ賣藥營業稅并諸鑑札料仕上勘定帳

一金何程

此譯

從來營業者何人

此藥劑何方

新規營業者何人

此藥劑何方

人員何人

合

藥劑何方

一金何程

此譯

人員何人

藥劑何方

鑑札何枚

營業稅

一金何程

此譯

人員何人

藥劑何方

鑑札何枚

一金何程

此譯

人員何人

藥劑何方

鑑札何枚

一金何程

此譯

金何程

請賣鑑札料

行商鑑札料

鑑札書替再渡料

營業鑑札料

金何程

請賣鑑札料

金何程

行商鑑札料

總計金何程

右者明治何年七月ヨリ十二月マテ賣藥營業稅并鑑札料書面之通候也

年月日

官氏名印

賣藥營業願書式

明治八年當省乙第九拾八號達離形ニ照準スベシ
賣藥營業鑑札離形

銅版

唐草

雷紋

衛局長印

一方名
 右免許候事
 明治年
 月日
 内務省
 省內務印
 府大小區國郡村番地
 氏名

賣藥改正願書式 用紙美濃紙

賣藥改正願

縣府 大小區國郡町村 番地

營業人 氏名

一方名

藥品 分量

製方

用法服量

功能

右者何年何月御検査濟鑑札御下渡營業仕候處今般何々之廉左之通改正仕度御差支無之候ハ、鑑札御書替被下度此段奉願候也
一改正ノ廉ヲ詳記スヘシ

年 月 日

願人

氏名印

區長或醫務取締氏名印

管轄廳長官氏名宛

賣藥請賣鑑札願書式 用紙同上

賣藥請賣願

一方名 一同 一同 一同

右營業人

縣府 大小區國郡町村 番地

族籍 氏名

但營業者異ナレハ縱令一方タリモ必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ之ヲ區別シテ書記スヘシ

右之賣藥幾方今般請賣仕度依テ別紙營業者へ御免許

之御指令寫并約定書相添此段奉願候也

縣府 大小區國郡町番地

年 月 日 請賣願人 族籍 氏名印

管轄廳長官氏名宛

賣藥請賣約定書

一方名 一同上 一同上 一同上 一同上

右者何某ノ官許ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可
致示談相整ヒ候ニ付請賣者ニ於テ讀賣鑑札ヲ願受ケ
營業者ノ製調シタル賣藥ヲ取次販賣致スヘシ然ル上
ハ營業者鑑札免許期限内ハ總テ賣藥ニ關スル御規則
及ヒ御達ノ趣旨ヲ確守シ不正之所業致間敷候依テ約
定書如件
縣府 大小區國郡町番地

年 月 日

賣藥營業人 族籍 氏名印

同

賣藥請賣人 族籍 氏名印

賣藥請賣鑑札雛形 用紙西洋紙銅版摺

裏

賣藥營業人 氏名

賣藥請賣

許可之證

請賣營業人 氏名

族籍

外唐草

内唐草

第五類ノ二十三

七十七

表

衛生局長印

番號

賣藥請賣許可之證

一方名 一同

一同

右請賣營業聞届候事

明治 年 月 日

内務省 印務省

カ ラ シ ヲ

雷紋

雷紋

縦五寸壹分

第五類ノ二十二

七十六

横三寸六分

賣藥行商鑑札雕形

用材檜

鑿三寸五分

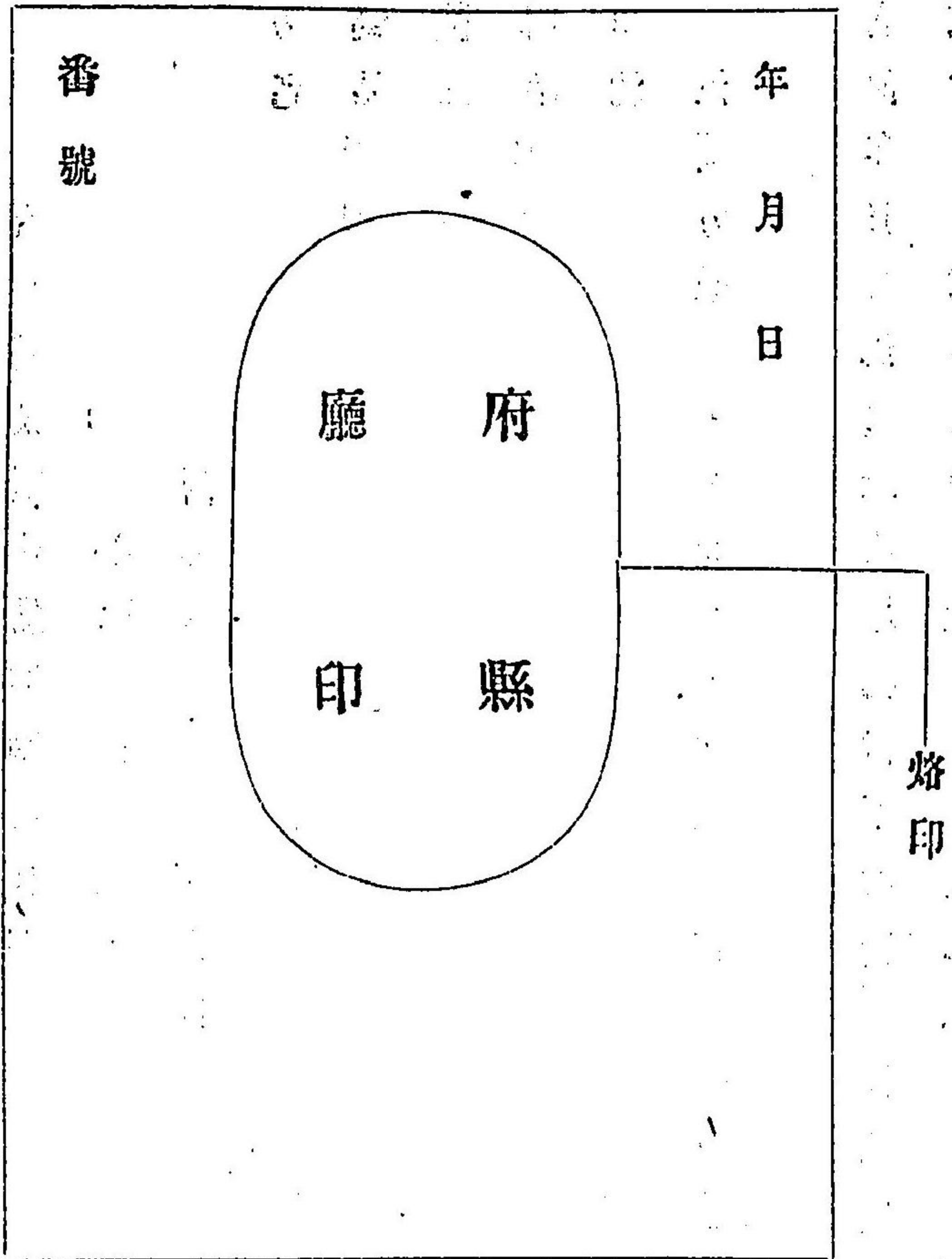
厚三分

表

賣藥行商許可之證	府籍	苗字名
賣藥營業何誰賣子	一何湯	一何丸
	一何膏	一何丹
		一何散
右行商聞届候事		

藥氏寸五分

裏



賣藥營業鑑札滿期書替願書式 用紙美濃紙

賣藥營業鑑札滿期御書替願

縣 大小區國郡町村番地
營業人 族籍 氏名

一方名

藥品 分量

製法

用法 服量

功能

但藥方數種アル時ハ上ノ例ニ從テ一々連書スベシ

右者何年月日御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處來ル何月滿期相成猶引續營業仕度別紙鑑札幾枚返納仕候間

御詮議ノ上御差支無之候ハ、御書替被下度此段奉願候也

年 月 日

願人

氏名印

區長ハ或 醫務取締氏名印

管轄廳長官氏名宛

賣藥營業鑑札并請賣鑑札 遺失之節書替願書式 用紙同上

賣藥營業鑑札ハ或 賣藥請賣鑑札 遺失ニ付御書替願

縣 大小區國郡町村番地

一方名

賣藥營業人 族籍 氏名

賣藥請賣鑑札ナレバ左之通認ムヘシ

一方名

縣府 大小區國郡町番地

賣藥營業人 族籍 氏名

右請賣人 同

族籍 氏名

右者何年何月概略ト記憶スベシ御下渡被下候賣藥營業人或ハ請何月日何々ノ事故ニテ遺失仕候間更ニ御下渡被下度此段奉願候也

年 月 日

賣藥營業人 氏名印
或ハ請賣人 氏名印
區長ハ或醫務取締氏名印

管轄廳長官氏名宛

賣藥營業鑑札讓渡願書式 用紙同上

賣藥營業鑑札讓渡願

一方名

縣府 大小區國郡町番地

營業人 族籍 氏名

藥品 分量

製法

用法服量

功能

但賣藥數種アル時ハ上ノ例ニ從テ連書スヘシ
右者何年月検査濟鑑札御下渡營業仕候處今般縣族籍
何某ニ示談之上讓渡申度依テ所持之鑑札返納仕候間
御書替被下度此段奉願候也

年 月 日

縣府 大小區國郡町番地
賣藥鑑札主 族籍 氏名印

同

右讓受人 族籍 氏名印

所繼住ノ主 區長ハ或ハ醫務取締氏名印

所讓住ノ主 區長ハ或ハ醫務取締氏名印

管轄廳長官氏名宛 但該管轄廳ノ管轄區ハ其旨ヲ出シ鑑シ

明第五十九年內務省略ス
治五十九年號達略ス
務治九年七月十三日
省九年七月十三日
乙年七月十三日
第百三十四號達

府 縣

本年當省乙第五十四號達製藥免許手續第二條中「送致
シ試験ヲ受ク」ヲ「送致シ置キ」ニ改メ更ニ但書左ノ通増
補候條此旨相達候事

但シ司藥場ニ於テハ試験ノ上直チニ本省ニ差出シ
別ニ該管轄ニ通知セサルモノトス

明務治省乙年七月十三日
務治省乙年七月十三日
乙年七月十三日
第百三十四號達

府 縣

本年三月內務省乙第三拾貳號ヲ以テ相達候賣藥規則
取扱手續書中左之通改正追加候條此旨可相心得且收
稅上ニ關スル事件ハ自今總テ大藏省へ可伺出此旨相

達候事

一第四項改正
明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ鑑札所持

ノ者本年六月マテニ廢業届出候分ハ特別ノ詮議ヲ以

本年ニ限リ前半期ノ税金ハ免除スヘシ

一第六項改正
税金并ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納証ヲ添ユルノミ

ニシテ勘定帳ハ壹ケ年取束子毎年八月三十一日限リ

該地差立大藏省租稅局へ進達スヘシ

但會計年渡ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マテノ

分ハ別牒ニ製シ八月三十一日限リ該地差立同局へ

第十項改正
一 進達スヘシ
一 賣藥營業稅並諸鑑札料上納勘定帳雛形

明治何年七月ヨリ同何年六月マテ賣藥營業稅并諸鑑

札料仕上勘定帳

第二項ノ次ニ追加
一 營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權

アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ其居住人ニ於

テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス

明治十一年九月十九日
太政官第一二七號布告

明治十年一月第七號布告賣藥規則中左ノ通改正候條此

旨布告候事

第二條 其管轄廳ノ下ヲ經由シ内務省ノ八字ヲ削

第三條 (内務省)ノ三字ヲ管轄廳ニ改メ(毒藥)ノ下ニ

(劇藥)ノ二字ヲ加フ

第五條 免許鑑札ヲ受ノ下(ケ管轄廳ハ之ヲ内務省

ニ届出)ノ十三字ヲ削リ(シ)ノ一字ヲ加フ

第十條第十九條但書(有毒)ヲ(有害)ニ改ム

明治十一年十一月八日
内務省第七十一號ヲ以テ府縣ニ達

本年九月太政官第二十七號ヲ以テ賣藥規則改正公布

相成候ニ付テハ左之手續並雛形ニ照準シ取扱可申此

旨相達候事

賣藥取扱手續

一 鑑札料紙ハ別紙雛形ノ通相製シ當省ヨリ相渡スヘ

シ

一 右料紙ニ凡積ヲ以テ每年半期分宛一月七月兩度ニ

受取方當省ニ申立ヘシ

- 一 管廳ニ於テ鑑札ニ記スヘキ方名姓名番號等雛形之通記入押印之上下渡スヘシ
- 一 家畜牛馬等ニ用ユル賣藥鑑札ハ赤輪廓之分ヲ用ユヘシ
- 一 免許期限内ニ於テ鑑札書換ヲ要スル分ハ其事由並ニ書換タル年月日ヲ鑑札裏面ニ記入下附スヘシ
- 一 賣藥廢業鑑札是迄當省へ返納致來候處自今其儀ニ及ハス管廳ニ於テ消却スヘシ
- 一 賣藥請賣行商共已後明細簿差出スニ及ハス左ノ表式ニ準シ二月八月兩度ニ當省へ差出スヘシ

鑑札雛形

裏	面
<p>番號</p> <p>何<small>府</small>何大區何小區何國何郡</p> <p>何<small>村</small>何番地</p> <p>何之誰</p> <p>方名</p> <p>右免許候事</p> <p>明治年月日</p> <p>內務省</p> <p>內務省印</p>	<p>府縣廳</p> <p>府縣廳印</p>

明治何年自十一月(自七月)至六月(自二月)半期內賣藥檢査及請賣行商員數表

許	檢査方數		廢業
	禁	合計	
		鑑札書換	舊方數
			新方數

前期内ニ許可シタルモノ當期ニ至リ廢業スルモノヲ掲クヘシ
 当期内ニ許可タルモノ當ニ廢業スルヲ掲クヘシ

請賣鑑札下附

方	數	鑑	札
行商鑑札下附			

右者明治何年七月ヨリ十二月マテ賣藥營業并請賣行商共書面之通候也

年 月 日

府縣官氏名印

明治十四年九月十八日
内務省第七第四十三號達

府 縣

明治十一年當省乙第七十號達賣藥取扱手續末項刪除候條此旨相達候事

但十二年乙第五十五號達衛生課事務條項第六條中賣藥之件ハ從前之通可心得事

明治十五年十一月廿七日
太政官第五十一號布告

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
印紙税ノ割合

- 一 定價壹錢迄 印税一厘
- 一 全 二錢迄 全 二厘
- 一 全 三錢迄 全 三厘
- 一 全 五錢迄 全 五厘
- 一 全 十錢迄 全 一錢

以上總テ五錢毎ニ五厘ヲ増加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

- 一厘 淡 黒色
- 二厘 青 色
- 三厘 黄 色

- 五厘 茶 褐色
- 壹錢 赭 色
- 貳錢 綠 色
- 三錢 濃 青色
- 四錢 橙 黄色
- 五錢 紫 色
- 拾錢 深 紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ
第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者

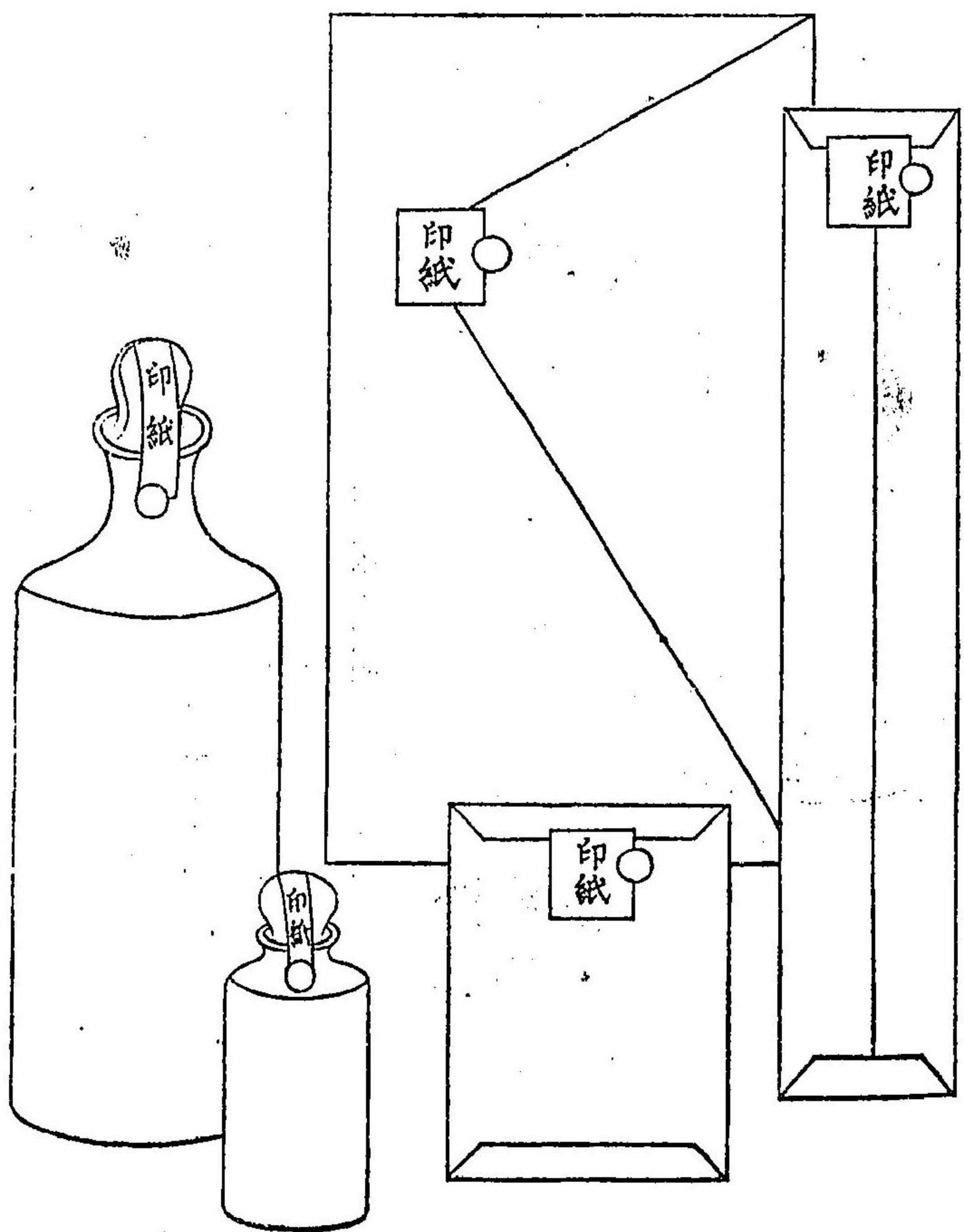
ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

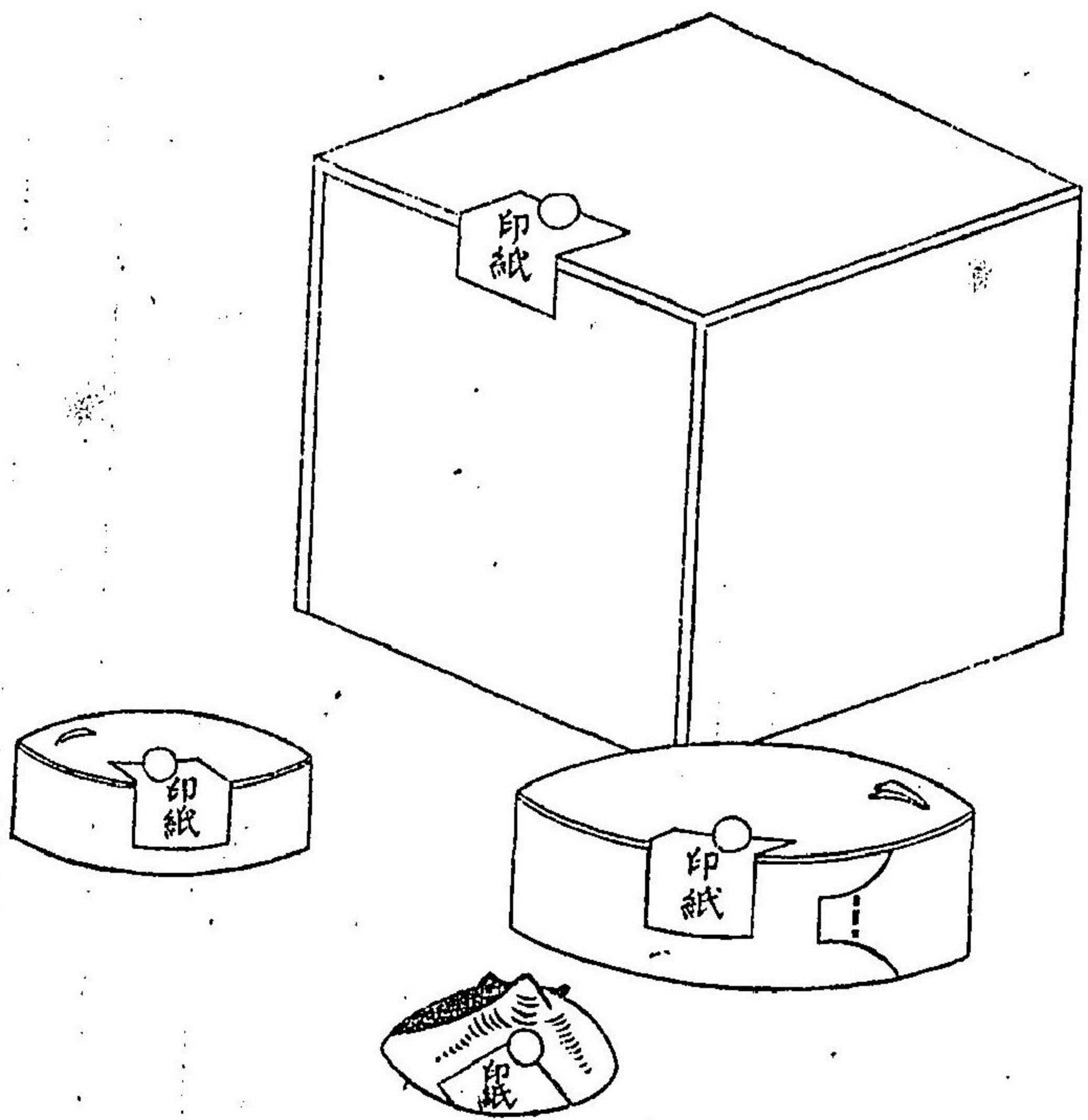
第六條 請賣者行商人ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

印紙貼
用瓶形





大明治十五年十二月廿七日
官十五年十一月廿七日
布告

明治十年一月第七號布告賣藥規則中左ノ通追加ニ來明
治十六年一月一日ヨリ施行ス

第二條ニ但書追加

但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製
スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ
第十六條中右鑑札料云々ノ項ニ但書追加
但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇
所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ムヘシ

第六類 毒藥劇藥

明治十三年一月十七日
政治官第一號布告

藥品取扱規則左ノ通相定來ル二月十五日ヨリ施行シ
明治十年二月第二拾號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日
限廢候條此旨布告候事

藥品取扱規則

第一條 凡ソ藥品中最注意シテ精選スヘキモノヲ第
一類注意トシ其性効峻烈コシテ僅少ノ分量ト雖モ
直チニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘキモノヲ第二類毒
トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因
テ容易ニ危害ヲ來タスヘキモノヲ第三類劇トス其
類目別表ノ如シ

但新々ニ發見及ヒ舶來シタル藥品ハ先ツ最寄司
藥場ニ出シテ試驗ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘ
シ

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラズ若シ
精良ナラサルキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危
フスルカ故ニ其粗製品ラ故意ニ他物ヲ混造シタルニ
ナラ際其法疎漏ニシテ精ハ之ヲ藥用トシテ販賣
スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルトキ
ハ最寄司藥場ニ請ヒ無費ニテ試驗ヲ受クルコト
ヲ得

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上
等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明

記シ之ヲ販賣スルコトヲ得

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方法ニ據テ
調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ
品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シ
タル證書ヲ以テスルニアラサレバ決シテ販賣或ハ
授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘ
シ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其
他不安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器
若クハ包紙ニ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ
毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラズシテ封緘ヲ開キタル第

二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ
本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密閉封印スヘシ

第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贗品故意ニ

他品ノ物品ニ混合シテ其量或ハ量ヲ變換スルモハ
ノ云フ類敗品生シテ酸敗、風化、或ハ潮解シ其若クハ
効力ヲ變シ、或ハ其効力ヲ販賣スルモノハ其贗販
品ヲ没入シ三十圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ一
月以上一年以下ノ懲役第一條但書第四條但書及第
三條第五條ニ背戻スルモノハ一圓以上二十五圓以
下ノ罰金若クハ壹日以上二十五日以下ノ懲役ヲ科
シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ

第七條 右ノ罰則ヲ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限
ニ二倍以下ノ罰ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最多

限ニ三倍以下ノ罰ヲ科スヘシ

第一類注意表

- 印度大麻葉及其製劑
- 莨菪葉并根及其製劑
- 麥奴及其製劑
- 番木鱉子及其製劑
- 乳酸、鐵
- ペブシチ
- 吐根
- 吐酒石
- 礫砂精 (アンモニア水)
- ケヤタリス葉及其製劑

カラバル豆及其製劑

肝油

ヨヂウム

沃土加里

沃土鐵舍利別

第一沃土汞 (黄色沃汞)

第一コロイル汞 (甘汞)

第二コロイル汞 (昇汞)

炭酸アンモニヤ (鹼砂素)

老利爾結兒私水并苦扁桃木

蔓陀羅華及其製劑

蒺刺巴脂并珠根及其製劑

芫菁 (斑蝥)

コロ、フォルム

コロラルピドライド

格魯失屈謨實及其製劑

格魯董篤實及其製劑

アドロヒ子鹽類

阿片製劑

サントニイチ

醋酸アンモニア水 (インデレリ精)

薩爾撒根

サリシール酸及鹽類

機那皮

規尼涅鹽類

綿馬及其製劑

硝酸銀

失鳩答草及其製劑

椿酸セリウム

臭素加里(ア素ロムカ私ラム)

エーテル(アール)

鹽基性硝酸蒼鉛

ヒヨス葉及其製劑

蓖麻子由

莫爾比涅鹽類

冰素還元鐵

第二類毒藥表

磷

カンダリヂーネ

クラール(ウラ)

亞砒酸(異名アルセニツキ) 其製劑及砒抱合物(砒冠雄類)

揮發苦扁桃油

有毒性アルカロイド并其鹽類

ニコチン。ギキタリ。ナルセー。グエラトリ。ブル

シネ。ココー。コニー。アドロヒネ。アユニチネ。エメ

チネ。ヒヨシ。アミネ。モルヒネ。ストリキニーネ。等

猛劇汞劑

白降汞。第一沃汞。昇汞。赤降汞。硝酸亞酸化汞。青酸汞。生々

乳

青酸及其製劑

第三類藥表

印度大麻葉及其製劑

苧若葉并根及其製劑

番木髓及其製劑

巴豆及巴豆油

麥奴及其製劑

ポトヒリソ

ヘルレボル根及其製劑

吐根及其製劑

吐酒石其他安質莫尼製劑

毒蒿莖及其製劑

藤黃

チキタリス葉及其製劑

硫酸

カラハル豆及其製劑

苛性加里(腐蝕加里)

苛性曹達(腐蝕加里)

芥子油及芥子精

甘汞及輕粉、汞灰散、藍丸

ヨギウム及其製劑

沃土加里

ロヂウム鐵

ヨードホルミウム

雙鸞菊球根(烏頭子頭)及其製劑

老利爾結兒私冰并苦扁桃水

ヴェラトリ根

過酸滿俺酸加里及曹達

蒺刺巴脂并球根及其製劑

蔓陀羅華葉及其製劑

芫菁(斑蝥)及其製劑

ケレチソート

クロミウム(臭アローム)

ゴローム酸

コルシクム實并根及其製劑

コロシント實其製劑

コロハフォルム(迷朦水)

コロトニコロラルヒドレート

コロラルヒドレート

コロタイン

コローム酸加里及重コローム酸

阿片及其製劑

亞鉛華其他亞鉛製劑

サピナ葉及其製劑

醋酸鉛(鉛糖)其他鉛製劑

サントコト子

次醋酸銅其他銅製劑(藥ノ化銅丹)

硝酸(硝石精)

硝酸銀

失鳩答葉及其製劑

臭素加里

鹽酸(鹽海化水素酸精)

鹽化金ナトリウム

鹽酸重土其他重土製劑

鹽基性硝酸蒼鉛其他蒼鉛製劑

エウホルピウム及其製劑

ヒヨス葉及其製劑

石炭酸

瑞香皮及其製劑

スカンモノー脂

明治十三年三月十七日
内務省第七第十號達

府 縣

本年一月太政官第一號ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候ニ付テハ繪具染料等モ第二類並第三類表中ニ掲載有之モノハ該規則ニ照シ賣買可致筈ニ候條心得違ノ者無之様可取計此旨相達候事

明治十三年五月十五日
太政官第二十三號布告

石炭酸其他劇藥ハ本年一月第一號布告藥品取扱規則第

四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事

明治十一年八月九日
太政官第二十一號布告

明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買并製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事
但施行ノ時日ハ退テ内務省ヨリ可相達事

藥用阿片賣買並製造規則

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ其内國產若シハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ然ル後チ各司藥場ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ケ之

ヲ賣捌カシムヘシ
但司藥場ヲ置カサル地方ニ於テハ該地方廳ヨリ
之ヲ拂下シヘシ

第三條 各司藥場ヨリ拂下シル所ノ阿片ハ量目一匁
ヲ以テ一器トシ每器司藥場ノ印紙ヲ貼附スヘシ
第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當
ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ內務省ニ稟
議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ內務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄
廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ
但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用
阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ

第七條 特許ヲ受クル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算
シ毎年度最寄司藥場司藥場ハ該地方廳ニ申立テ其拂下
ケテ請フヘシ

但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケテ請フコトヲ得

第八條 凡醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片

ヲ要スルトキハ其量目並ニ其住所姓名及年月日病院
ハ其名及ヒ姓名若ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特

許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之
ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就
キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買スルトハ

妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカラス

第九條 凡ソ内外國人共醫師ノ處分箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖并ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受并ニ一匁以上賣捌ノ高及買入ノ住所姓名並ニ一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ヘ差出スヘシ尤一匁以下ノ分ハ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ內務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細ヲ

簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採収製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ內務省ノ買上ケテ願フベシ右買上ケテ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サス

但司藥場ニ於テ其品位藥用ニ適セサル者トスルコトキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署印調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ノ買上ケテ願フヘシ右買上ケテ受クルノ外決シ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サス

但司藥場ニ於テ其品位藥用ニ適セサル者トスル

キハ該地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片
ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ盟凶
及ヒ外國一般相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其
品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ
「モルヒ子」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條 內務省ニ買上ケ及ヒ拂下クル所ノ阿片ハ
百分中ニ「モルヒ子」六分以上十一分ニ至ルマテヲ含
有スル者ニ限ルハシ

第十六條 此規則ニ違犯スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片
賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五
十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

內明 務治 省十 甲一 年二 第十 一七 號布 達

本年八月太政官第貳拾壹號布告阿片賣買並製造規則
之儀ハ來ル明治十二年五月一日ヨリ施行候條此旨布
達候事

內明 務治 省十 甲一 年二 第十 一七 號布 達

本月二日當省甲第二十七號ヲ以テ阿片賣買並製造規
則施行ノ日限布達候ニ付テハ豫メ左件ノ通可取計此
旨相達候事

一各管内藥舖營業者及ヒ阿片製造者ニ於テ規在所持
ノ阿片ノ試驗ヲ要スル者ハ來ル十二月限り最寄司
藥場ニ差出ス可シ試驗ノ上相當ノ品ハ小器ニ分チ
テ印紙ヲ貼附シ之ヲ下渡シ若シ其買上チ望ムモノ
ハ定價ヲ以テ買上ク可ク品位不相當ノ品ハ其理由
ヲ記シテ持主ニ返附スヘシ

一 阿片賣買並製造規則第四條ニ據リ各郡區ニ於テ阿片賣捌ヲ特許スヘキ藥舖ヲ撰定シ其郡區町村番地姓名年齢ヲ詳記シ來ル十二月限リ申出ヘシ

一 阿片製造人有之地方ハ同規則第十二條ニ據リ免許鑑札願出シムヘシ

第七類 贋造藥品

明治七年十二月廿五日
太政官達

東京府大坂府京都府

藥品之儀ハ純良精製ニ無之テハ眼前人命ヲ誤リ候重要ノ品柄故賣買上取締方法可相立ニ付自今キニヨリトボツタースガリニヨリフドノニ藥萬一贋惡之品販賣貯藏致候者ハ左之罰則ニ照シ處分候條此旨管下ヘ布達ス可キ事

但爾他ノ藥品モ其名ヲ掲ケ順次相達スヘク且本文罰則施行ノ期日ハ追テ文部省ヨリ可相達事

罰則

一 贋藥販賣ヲ販賣スル者ハ五拾圓以内ノ罰金ヲ課

但再犯以上ハ初度ニ倍スル罰金ヲ課シ尙藥品ノ販賣ヲ禁ス

昨七年十二月廿五日三府へ御達相成候藥品取締罰則之儀來ル十月十一日ヨリ施行候條此段及御通達候也
明治八年七月廿三日
内務卿大久保利通

司法卿大木喬任殿

明治九年三月

東京裁判所京都裁判所大坂裁判所

藥品取締罰則之儀ニ付明治八年七月中相達置候處今般尙又別紙之通御達有之候條此旨相達候事

別紙

明治九年三月十九日
太政官達

別紙

東京府大坂府京都府

賈惡藥品取締及罰則之儀明治七年十二月相達候處今般左ノ藥品二十種ヲ追加シ來ル五月一日ヨリ右罰則ニ照シ處分候條此旨管下へ可布達事

- 一 ストリキニイチ
- 一 アトロヒネ
- 一 吐根
- 一 機那皮
- 一 ラウリール水
- 一 コロロホルム
- 一 炭酸アムモコヤ
- 一 臭素カリ
- 一 硝酸銀
- 一 甘汞
- 一 モルヒチ
- 一 サントニチ
- 一 チキタリス
- 一 苦扁桃水
- 一 エーテル
- 一 碓砂精
- 一 コロラルヒドレート
- 一 枸橼酸鎂キニイチ
- 一 硝酸ビスミエツト
- 一 昇汞

第八類 鳥獵獸

明治十年十一月廿三日
官報第十一號布告

鳥獸獵規則別紙ノ通改正候條此旨布告候事

鳥獸獵規則

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノタメニスルヲ遊獵トス

第二條 銃獵免狀ナキモノハ總テ銃獵スルヲ禁ス但有害ノ鳥獸ヲ除クガタメニハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フヘシ

第三條 銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名年齢ヲ詳記シ東京府下ニ於テハ内務省其他ハ該地方官廳ニ差出スヘシ

第四條 免狀ハ其効一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸

借シ賣買シ若クハ授受スルコトヲ禁ス

第五條 免狀ヲ願受ル者ハ左ノ通免許税ヲ納ムヘシ

- 一 職獵税 金壹圓
- 一 遊獵税 金拾圓

第六條 水火盜難其他ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀失スル

時ハ速ニ東京府下ニ於テハ内務省其他ハ該地方官

應ニ届出スヘシ再ヒ免狀ヲ願受ル者ハ更ニ税金ヲ

納ムルニ及ハスト雖モ手数料トシテ金貳拾五錢ヲ

納ムヘシ

第七條 左ニ記列シタル者ニハ免狀ヲ付與セサルヘ

シ

一 拾六歳未満ノ者

一 白痴風癩等ノ者

一 故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者

第八條 左ニ記列シタル場所ニ於テハ銃獵ヲナスヲ

禁ス

一 都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所

一 銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ

場所

一 禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃貳挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵

禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

一 作物植付ケアル田畑或ハ社寺人家等ノ構内

但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ得タル者ハ此限ニ

アラヌ

第九條 獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃

ニ限ルヘシ軍銃ヲ用フルヲ禁ス

第十條 銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ

以テ一期トス是時限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景況ニヨリ已ムヲ得ス此期限ヲ伸縮ス
ル時ハ其理由ヲ内務省ヘ届出ヘシ

第十一條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ獵銃ヲ禁ス

第十二條 凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ携帶スヘ

シ出獵中警察官吏區戸長村役人等免狀ヲ看ツト請
フ者アル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ

有害トスル時ハ第八條所示ノ如キ制札ヲ建テ其周

圍ニ繩張又ハ假圍ヲナスヘシ

第十四條 凡テ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科

スヘシ

第十五條 銃獵ヲ生業トスル者ニアラスニテ職獵ノ

免狀ヲ受ケ遊獵スル者ハ五拾圓ノ罰金ヲ科シ免狀

取上ケ其期内銃獵ヲ禁スヘシ

第十六條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ証跡ヲ取り訴出ル

時ハ犯人罰金ノ半ヲ賞トシテ與フヘシ

第十七條 第十四條第十五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者

ハ三圓ヨリ少ナカラス貳拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ

科スヘシ

明治十年二月八日
内務省令第十一號ヲ以府縣ヘ達

太政官第拾一號布告鳥獸獵規則改正相成候ニ
付明治八年當省乙第三拾六號達銃獵鑑札渡方
條例別冊ノ通改正候條右ニ照準可取計此旨相

達候事

銃獵免狀渡方條例

第一條

鳥獸獵免狀ハ別紙雛形ノ通相製シ當省ヨリ相渡スヘシ

第二條

免狀ハ兼テ凡積ヲ以テ東京府下ハ當省其他ハ地方管廳へ可相渡置ニ付管内限リ總計取調毎年六月三十日迄請取方申立ヘシ

第三條

免狀下ケ渡ノ節ハ毎年其管廳ニ於テ帳簿ヲ製シ置番號并住所姓名身分年齡共詳細登記スヘシ

第四條

管廳ニ於テ免狀ニ記スヘキ期限國郡姓名年齡住所共雛形ノ通記入押印ノ上下ケ渡スヘシ

第五條

定期ヲ伸縮スル場所ニ於テ免許スル免狀ハ其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一期トシ新舊引替相渡スヘシ

第六條

銃獵滿期ノ分ハ免狀收却ノ上總テ該管廳ニ於テ斷裁スヘシ

第七條

凡積ヲ以テ相渡置候免狀殘餘有之節モ前條ニ同シ

第八條

鳥銃獵免狀渡濟ノ上ハ別紙雛形ノ通總計表ヲ製シ翌年七月限リ當省ヘ差出スヘシ

第九條

定期ヲ伸縮スル場所ハ勿論定期ノ場所ト雖モ實際取調其時々届出ヘシ

第十條

銃獵犯則者ノ罰金上納方ハ明治八年司法省第四十號達ノ通相心得ヘシ

第十一條

禁獵制札ノ儀ハ別紙雛形ニ照シ製作可致最モ其大小ハ適宜ニ任スヘシ

但官設ハ府縣費民設ハ民費又ハ自費タルヘ

第十二條

銃獵免狀ヲ毀失セシ者再應請取方申立候節ハ事實取糺ノ上更ニ下渡方取計規則ノ通手數料収入スヘシ

内明 明治十年二月廿一日 號ヲ以テ府縣ヘ達

鳥獸獵免狀中受候後廢業或ハ換業等ニテ免狀返納致候者ハ昨年大藏省甲第二號達ノ通り税金返附シ更ニ手數料收納候義ト可相心得此旨相達候事

大明 明治九年甲第二號布達

税金相納メ諸種鑑札申受候後廢業或ハ換業等致候者ハ自今右申受ノ日ヨリ十五日以内ニ其

旨届出候得ハ税金ヲ返付シ其手数料トシテ更ニ金二拾錢收納候條此旨布達候事

但シ右日限ヲ過去リ申立候者ハ此限ニ非ス

明治七年十一月二十日
官第百二十二號日布達

明治六年三月第百拾號布告鳥獸獵規則別冊之通改正候條犯則ノ者取締方ノ儀左ノ通可相心得此旨布告候事

一 犯則ノ者有之節ハ何人ニ限ラス之ヲ即時ニ捕ヘ又ハ其獵具ヲ直チニ取上ルニ及ハス其犯則ノ輕キ者ハ鑑札ノ番號姓名等ヲ取調役場ノ區長又ハ警察官ニ申立ヘシ若シ鑑札ナキ者ハ其姓名住所ヲ聞糺シ其犯人ニ同行シテ其本宅ヲ認ムヘシ若シ犯人言語不通或ハ其

面ヲ隠シ又姓名ヲ告ケルヲ肯セス其住所本宅知レサル時ハ近傍ノ役場へ伴ヒ穩便ニ其身上ヲ聞糺スヘシ若シ其犯セル事柄緩クスヘカラス且後日取調ノ爲メ証據ヲ要スヘキモノト思量スル時ハ直チニ其場ノ地主カ又ハ近傍ノ者或ハ往來筋ナラハ其通り掛リ者ニテモ兩三人ニ其犯セシ次第ヲ認メ置セ直ニ其事柄ヲ役場へ報知スヘシ若シ役場ノ遠キ時ハ其最寄ノ人家ヲ借り假リニ犯人ヲ伴ヒ置キ己レハ其人ヲ看護シ証人ノ内ヲ撰ミテ報知セシムヘシ

一 犯人高貴ノモノト認ル時ハ前條ノ處置ヲ施ストモ別テ粗暴ノ事ナキ様注意スヘシ

(參考) 明治七年十一月十六日 以テ使府縣へ達

鳥獸獵規則別冊之通改正布告候條取締方不都合無之様處分可致此旨相達候事

但シ鑑札ハ兼テ内務省ヨリ可請取置事

(鳥獸獵規則別冊ハ明治十年第十一號ヲ以テ改定セラレタルヲ明テ此所ニ署ス)

明治七年十一月廿五日 大政官第百五十七號 以テ内務省大藏司法開拓使警視廳及府縣へ達

皇族銃獵ノ儀別紙之通宮内省へ相達候條此旨爲心得相達候事

別紙

宮内省

皇族遊獵被願出候節ハ從其省該地管廳へ照會シ鑑札受取可相渡尤銃獵規則遵守可有之ハ勿論ニ候得共納ニハ不及候條此旨相達候

事

明治十年二月七日 以府縣達

太政官第十一號布告鳥獸獵規則改正相成候ニ付テハ追テ免狀相製シ當省ヨリ可相渡候條當分之内從前ノ鑑札代用可致此旨相達候事

明治九年三月廿三日 以テ廳府縣へ達

警察官吏於テ外國人ノ銃獵スルヲ見認メ差留候節若シ肯セサル者アル時拘引スヘキ場合柄並手續等ハ豫テ外務省へ同置候様可致此旨相達候事

明治八年三月十二日 以各裁判所へ達

別紙之通御達相成候條爲心得此旨相達候事 別紙内務省同銃獵免許鑑札渡方條例中第十

條削除之儀聞届候條此旨爲心得相達候事

明治八年三月九日 太政大臣三條實美

銃獵免許鑑札渡方條例之儀再伺

銃獵免許鑑札渡方條例之儀ニ付當一月八日

附ヲ以テ相伺候處同二月四日附ヲ以テ御指

令相成然ル處右條例中第十條之儀ハ別紙之

通於大藏省達趣有之候ニ付刪除致度依テ條

例相添此段相伺候也

内務卿大久保利通代理

明治八年二月廿日 内務大丞林友幸

太政大臣三條實美殿

伺之通

明治八年三月九日

明治九年十一月六日

當管内鳥獸獵期限之儀本年十一月一日ヨリ來

ル明治十年四月十五日マテ差許候條此旨布達

候事

明治八年十二月三日

外國人銃獵規則ノ儀ニ付別紙ノ通外務省ヨリ

照會有之候間爲御心得此段通知ニ及置候也

司法大少丞

各上等裁判所 各通

各裁判所

我國在留外國人銃獵規則ノ儀ニ付目今各公使

ハ協議中ニテ未タ一決之運ヒニ不至候間公使

雇外外國人ト雖モ一般銃獵不差許筭之處御雇

外國人等之内往々銃獵致度旨其雇入應へ願出
 且規則罰則モ日本政府取設クル處ノ方法ニ從
 フヘシト申立候モ有之由ニ候得共其國々公
 使右罰則方法承認不致間ハ本人申立ハ徒言ト
 相成實用不致候間我成規ヲ遵守スルト否トニ
 不拘一切不差許候儀ニ候條此段爲御心得申進
 置候也

明治八年十一月廿二日

外務卿寺島宗則

司法卿大木喬任殿

明治十年一月四日
 丙年第一號ヲ以達

警視廳 東京府 大坂府 神奈川縣 兵庫縣
 長崎縣 新潟縣

外國人銃獵免許ノ儀今般各國公使へ談判ノ上免狀并

條約別紙甲乙號ノ通相定候條各地方居留ノ外國人銃
 獵免許申立候節ハ別紙免狀取扱條例ニ照準可取計此
 旨相達候事ニ改乙號正アリ書ス

明治十年十月廿七日
 丙年第五十五號達

本年當省丙第四十七號(丙第四十七號達之ハ消滅ニ)ヲ以
 テ外國人銃獵免許方ノ義改正甲乙號離形添へ相達置
 候處右離形ノ内脫語有之更ニ増補訂正ノ上別紙甲乙
 號離形相達候條最前ノ分ハ於該廳斷裁可致此旨更ニ
 相達候事

離形

號甲

定約

某縣令ヨリ何國人民或ハ臣民何某ニ本日銃獵免狀ヲ附與ヒシニ付右何
 某左ノ條々ヲ確守スヘキ旨ヲ愛ニ某縣令ト(東京ニテハ内務省警視局
 ノ長官)約定ス

表

第八類ノ十八

百四十二

第一條 日没後日出前ハ銃獵スルヲ許サズ且只遊興ノ爲メニ安リニ食用ニ供セサル禽類ヲ銃殺スヘカラス

第二條 常ニ左ノ諸場所ニ於テハ銃獵スヘカラス即チ
 都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所
 銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向タル距離ノ場所條約規程外ノ場所
 禁獵制札ノ場所
 但制札ハ獵銃ニ挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

作物植付アル場所
 社寺ノ境内其他繩張或ハ假圍シタル場所

第三條 日本官吏ノ求メニ應シ右免狀ヲ示シテ點檢ヲ受クヘシ
 他人ヲシテ右免狀ヲ使用セシムヘカラス
 何某自身ヲリテ明治十一年四月十五日(千八百七十八年四月十五日)以後ハ右免狀ヲ用ユヘカラス

第四條 前書ノ條款ニ違背スル時ハ洋銀十弗ヲ拂フヘシ然ル上ハ右免狀ハ無用ノ廢物トナルヘシ

第五條 免狀ハ右日限後日數二十日以内ニ最初受取タル官廳ニ返納スヘシ

明治 年 月 日

何府長官記名 調印
 願人 某 手記

面

裏

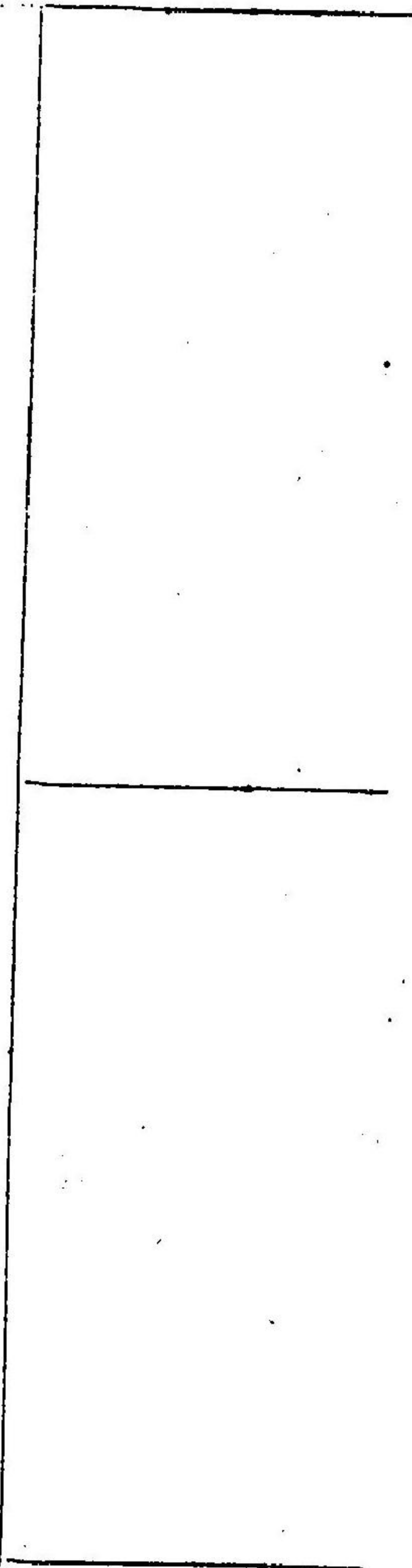
英文

佛文

第八類ノ十九

百四十三

面



雛形

日本帝國鳥獸獵免許之証

號乙

國名
姓名
年 齡
住 所

此免狀ハ當銃獵季即チ明治十年十月十五日(千八百七十七年十月十五日)明治十一年四月十五日(千八百七十八年四月十五日)迄ヲ限ル免狀料トシテ金十圓ヲ受取リタリ依テ左ノ箇條ヲ守ルヘシ

第一條 日没後日出前ハ銃獵ニルヲ許サス且只遊興ノ爲メニ妄リニ食用ニ供セサル禽類ヲ銃殺スヘカラス

第二條 常ニ左ノ諸場所ニ於テハ銃獵スカラス即チ

表

都府市街ハ勿論衆人群衆ノ場所
銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所條約規定外ノ場所

禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃ニ挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

作物植付アル場所

社寺ノ境内其他繩張或ハ假圍シタル場所

第三條 日本官吏ノ求ニ應ジ此免狀ヲ示シテ點檢ヲ受クヘシ

此免狀ハ他人ヲシテ使用セシムヘカラス

此免狀ハ明治十一年四月十五日(千八百七十八年四月十五日)以後ハ用ユヘカラス

第四條 前書ノ條款ハ違背スル時ハ洋銀拾弗ヲ拂フヘシ然ル上ハ此免狀ハ無用ノ廢物トナルヘシ

第五條 此免狀ハ右日限後日數二十日以内ニ最初受取タル官廳ニ返納スヘシ

何府縣廳印

面

裏

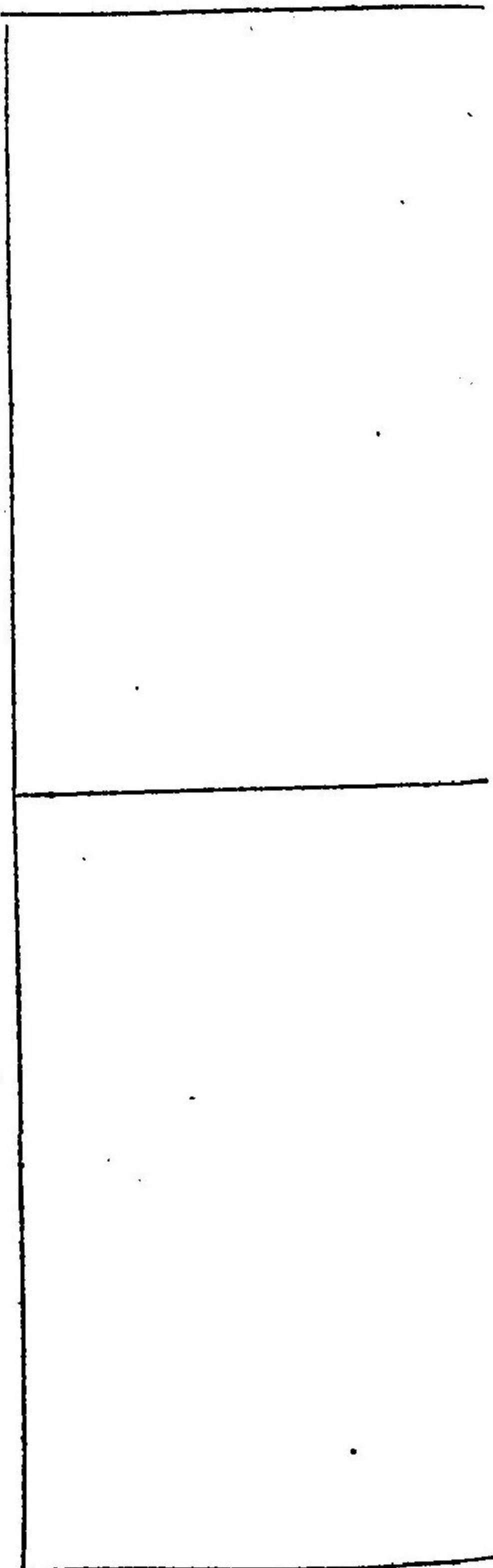
日本帝國鳥獸獵免許之証
此免狀ハ云々

英
文

日本帝國鳥獸獵免許之証
此免狀ハ云々

佛
文

面



第五十號
施行期限
一月以內
又第一號
中又第一
月又第一
ト又第一
改又第一
ト又第一
改又第一

第九類 石油取締

明治十四年八月十日
第三十號 告示

石油取締規則別冊之通相定來明治十五年一月一日ヨ
リ施行候條此旨布告候事

石油取締規則

第一條 石油ヲ分テ二種トス華氏驗温器百二十度以上
ノ熱度ニ至ラサレハ引火セサルモノヲ第一トシ其百
二十度ニ達セサルモ引火スルモノヲ第二種トス
第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種
ノ石油ハ醫師化學家藥商工職家ニ於テ業用ニ供スル
ノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條 石油營業者ヲ分テ擴業者精製者問屋及ヒ小賣
商ノ四類トス都テ管轄廳ハ東京府下ノ許可ヲ受クヘシ

第九類

第九類ノ一

百四十九

但シ二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ
第四條 礦業者精製者問屋多量ノ石油ヲ貯藏スル場所
及ヒ倉庫精製所ノ構造方ハ總テ管轄廳東京府警視廳ニ於
テ検査ノ上認可スルモノトス

第五條 第二種ノ石油ハ問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ
小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノト
ス但シ販賣ノ時限ハ日出ヨリ日没迄ノ間トス

第六條 醫師化學家藥商工職家第二種ノ石油ヲ購買ス
ルキハ其數量及ヒ需用ノ趣意ヲ詳記シタル証票ヲ問
屋ニ交付ス可シ問屋ハ其數量年月日及ヒ買人ノ住所
氏名ヲ別帳ニ記載シ其証票ヲ貯ヘ置ク可シ但シ幼年
者及ヒ瞽者聾者其他不能力者ニハ販賣ス可カラズ
第七條 警察官吏ハ石油精製所若クハ問屋ニ就テ石油

ヲ検査スヘシ其検査ヲ經タルモノニアラサレハ問屋
又ハ小賣商ヨリ需用者ニ販賣スルヲ得ズ

第八條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ問
屋ハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内ト
ス小賣商ハ第一種ノ石油三石以内第二種ノ石油五升
以内トス容器ハ總テ金屬製ヲ用フ可シ

第九條 石油ヲ運搬スルキハ其石油タルヲ及ヒ其種類
ヲ表記ス可シ但積卸ニ必用ナル時間ノ外波戶場又ハ
路傍ニ置クヘカラス

第十條 此規則ニ背ク者ハ貳圓以上二百圓以下ノ罰金
ニ處ス

明治十四年九月廿四日
第五十號布告

本年八月第四十號布告石油取締規則施行日限ノ儀ハ

來明治十五年九月一日ト改定并ニ右規則第一條左之
通改正候條此旨布告候事

第一條 石油ヲ分テ二種トス華氏驗温器百十五度

英語(ボ
テ即チ引火度ノ謂ナト)ニシ以上ニ至ラサレハ引火

セサルモノヲ第一種トシ其百十五度ニ達セサル

モ引火セサルモノヲ第二種トス

明治十六年二月十五日
官第六號布告

明治十四年八月第四十號及ヒ同年九月第五十號布告石油
取締規則左ノ通改定ス

但施行日限ノ儀ハ明治十五年八月第四十四號布告ノ
通タルヘシ

第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ
攝氏驗温器三十度(華氏度)以上ノ温度ニ達セサレハ

發焰セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ
發焰スルモノヲ第二種トス

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二
種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工藝上ニ
於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條 石油營業者ヲ分テ墾業者精製者問屋及ヒ小
賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳東京府
八警視廳下
許可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルトキハ別ニ其
許可ヲ受クヘシ

第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於
テ検査員ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ
石油ハ検査済ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣
スルヲ許サス但墾業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此

限ニアラス

第五條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ
第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トシ
容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ

第六條 石油營業者前條制限外ノ石油井ニ検査未済
ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ
都テ管轄廳東京府下ハノ認可ヲ受クヘシ

第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者
ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ
得ルモノトス

第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其
數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル
書付ヲ取り置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日

出ヨリ日没マテトス

第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ表
記スヘシ但其積卸ニ必用ナル時限ノ外物揚場又ハ
路傍ニ置クヘカラス

第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下
ノ罰金ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

明治十六年三月十六日
第十號布告

明治十五年八月第四十四號及本年二月第六號布告石油取
締規則施行日限ノ儀ハ追テ布告候マテ延期ス
右奉 勅旨布告候事

第十類 牛馬賣買取締

大明 政治官 第五年 第三百一十四號 以テ 諸省府縣へ達

牛馬賣買取渡世之者免許稅ノ儀 昨午未十二月中大藏省
ヨリ相達候處今般別紙規則書之通相定候條各管内共
區々ノ取計無之様可致候事

別紙

牛馬賣買取渡世之者免許稅ノ儀 昨午未十二月相達候處
此度御詮議ノ次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄
相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣應
ニ於テ取纏メ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ所
置可致候事

壬申十月

大藏省

規則

第一條

一各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬壹鼻綱ニ付免許鑑札壹枚相渡可申事

但壹鼻綱ハ牛馬共七疋ニ限鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノキハ七疋以内ニ枚ヲ所持スル者ハ十四疋ニ限ルヘシ其餘准之可申事

第二條

一免許鑑札願受候後事故アリテ數日ヲ不歷休業致シ候共一ケ年分ノ稅上納可致事
但休業ノ者ハ毎年二月ヲ期シ免許鑑札返納可致事

第二條

一免許鑑札萬一燒失流失盜難等ニテ失ヒ候モノ有

之其段申出候ハ事實取調鑑札相渡可申事

第四條

一免許鑑札壹枚ニ付一ケ年稅金一圓上納可致事
但右稅金ハ毎年二月中各府縣廳ヘ取立三月中迄ノ當省ヘ上納可致候尤二月以後免許候者ハ其都度取立直シニ上納可致候且明細帳ノ儀ハ各管内一ケ年取束十二月中迄ニ差出可申事

第五條

一免許鑑札燒印并押切判ハ雛形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稼人共ヘ相渡可申事
但鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省ヘ可差出事

第六條

一右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成
 萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テ
 ハ牛馬共取上ケ免許税十倍ノ科料可申付事
 但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ
 其訴主へ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二褒美
 トシテ被下候事

第七條

一取上牛馬拂代并科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照
 準上納可致事

第八條

一此規則施行ニ付候諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申
 立事
 右之通規則相定候事

壬申十月

大藏省

鑑札離
 形豎三
 寸横二
 寸表面

番號

。牛馬賣買免許鑑札

何府 何縣 支配所
 國郡村町名 誰

裏面

年號

干支月

何府 何縣 廳

燒印

明治七年四月二十五日
 太政官第四十五號布告

明治五年壬申十一月十一日布告牛馬賣買規則中第二條左ノ通
 改定候條此旨布告候事

一免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後
 ハ半年分納税シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以
 前ハ半年分納税可致事

明治七年六月十九日
太政官第六十七號布告

酒造絞油商船并生系牛馬賣買鑑札規則中左之通追加
候條此旨布告候事

酒造 絞油

商船

生系

牛馬

右諸鑑札遺失又ハ誤テ毀損スル者ハ科料金七拾五錢
可申付事

但酒類釀シ高鑑札并絞油器械鑑札モ同斷タルヘキ
事

明治七年十二月三十一日
太政官第七百三十一號布告

明治五年壬申十一月十一日 第三百三十號布告牛馬賣買規則第
九條左之通追加候條此旨布告候事

第九條

一 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事

但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買
ノ廉ニ照シ處分可致貸渡シ候者ハ免許稅五倍ノ
科料可申付事

明治八年七月十五日
太政官第七百十五號布告

明治五年十一月十一日 第三百三拾號布告牛馬賣買規則中第四
條但書左ノ通改正候條來明治九年ヨリ施行可致此旨
布告候事

牛馬賣買規則

第四條

一 免許鑑札云々

但右税金ハ毎年二月八月兩度ニ半額宛各管廳へ
取立租稅察へ上納可致尤新規免許ノ者ハ其都度
半額直ニ取立上納可致候事

大明治七年六月三十日
藏省第六十八號達

牛馬賣買免許鑑札稅ハ二月絞油稅ハ四月收入候節
現在稼人仕譯別紙雛形ニ倣ヒ牛馬ハ三月三十一日
絞油ハ五月卅一日限差出爾後新規稼休廢業等ハ其
時々可届出尤本年之儀ハ既ニ期限後ニ付往復日數
ヲ除キ三十日限取調可差出此旨相達候事

明治何年

牛馬賣買稼人仕譯

一牛馬賣買免許鑑札何枚 稼人何人
右ハ當明治何年二月現在稼人并鑑札渡
高書面之通候也

明治何年三月

官苗字名印

租稅頭何之誰殿

(絞油稼人仕譯帳雛形略之)

大明治八年十一月十八日
藏省第七百四十三號達

牛馬賣買免許鑑札稅煙草稅度量衡稅來ル明治九年六
月迄收入候分ハ會計年度八年分ニ編入致シ右以後其
年七月ヨリ翌年六月迄可收入分ヲ其年分ニ編入候儀
ト可相心得事

但牛馬賣買免許鑑札稅帳本年十二月迄ノ分ハ九年

二月十日限り差立同年一月ヨリ六月迄ノ分ハ別帳ニ致シ七月三十一日限差立右以後ハ其年七月ヨリ翌年六月迄一ケ年分七月卅一日限差立可申且現在稼人仕譯帳ハ向後差出不及候事

第十一類 徵兵令

明治十二年十月十七日
 官第十四號布告

徵兵令別冊ノ通改正候條此旨布告候事

但徵兵令ニ關スル従前ノ布告達及ヒ指令ハ渾テ廢止トス

別冊

徵兵令

第一章 徵兵編制

第一條 徵兵ハ全國ノ男子ヲ徵集シ以テ兵役ニ充ル者ナリ今陸軍ヲ大別シテ四ト爲ス常備軍豫備軍後備國民軍是ナリ又其兵丁ノ身材ニ從ヒ步騎砲工等ノ兵種ニ區別ス
 但海軍徵兵ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 常備軍ハ男子年二十才ニ至ル者ヲ各軍管下

ノ國郡ヨリ徵集シ其當籤者ヲ以テ之ヲ編制シ三ヶ年ノ役ニ服セシメ所管鎮臺ニ備フル者ナリ

第一項 殊ニ技藝ニ熟スル者平時ハ服役未タ終

ラスト雖モ詮議ノ上假ニ歸郷ヲ許スヘシ

第二項 強壯ニシテ技藝ニ熟シ行狀正シキ者ハ

在營六ヶ月ニシテ兵衛兵ニ拔擢シ更ニ三ヶ年

ノ役ニ服セシメ役終ルノ後豫備軍ニ編入シ二

ヶ年六ヶ月ノ後後備軍ニ編入ス

但近衛兵編制ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第三項 上下志官ト爲ンコト志願スル者ハ檢査

格例ニ照シ士官學校又ハ教導團ニ入ラシム

第四項 技藝ニ熟シ且才氣アル者ハ之ヲ拔擢シ

テ下士ニ任ス

第三條 輜重輸卒看病卒并ニ職工ハ各其志願ヲ徵募

スト雖モ若シ不足スルモ壯丁ノ身幹定尺ニ滿タ

ス又ハ銃器ヲ執ルニ適應セサル者或ハ合格ノ者ト

雖モ各自ノ職業ニ依リ便宜ヲ以テ諸兵ト同シク徵

集シ該役ニ服セシムルコトアルヘシ

第一項 輜重輸卒トシテ徵集スル者ハ六ヶ月間

常備軍役ニ服セシメ役終レハ豫備軍ニ編入シ

五年六ヶ月ノ後更ニ後備軍ニ編入ス

第二項 看病卒并ニ職工トシテ徵集スル者ハ服

役諸兵ト異ナルコトナシ

第四條 豫備軍在營中ハ定額ノ日給ヲ與フ其他食料

第五條 豫備軍ハ常備軍三ケ年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ更ニ三ケ年ノ役ヲ服セシメ常ニ家居シテ産業ヲ營マシム而シテ戰時或ハ非常ノ事故アル時ニ當リテハ直ニ之ヲ召集シ常備軍ニ加ヘ其員ヲ充實シ又ハ別ニ隊伍ニ編制シ從軍セシムル者ナリ故ニ每歲一度屯營ニ召集シ其技藝ヲ復習セシム

第六條 後備軍ハ豫備軍三ケ年ノ役ヲ終リシ者ヲ以テ之ヲ編制シ更ニ四ケ年ノ役ヲ服セシメ豫備軍ニ次テ之ヲ召集スル者ナリ故ニ平時ニ於テハ每歲一度便宜ノ地ニ召集シ其技藝ヲ復習セシム

第七條 兵役期限已ニ滿ル者ト雖モ戰時ハ勿論非常ノ事故アル時ハ其期限ヲ延スルアルヘシ

第八條 國民軍ハ全國ノ男子十七歳ヨリ四十歳迄ノ

人員ヲ兵籍ニ載セ置キ全國大學ノ役アルニ當リ時機ニ從ヒ隊伍ニ編制シ以テ守衛ニ充ル者ナリ

第二章 徵兵區域

第九條 凡全國ヲ別ツテ七大徵兵區トシ各軍管ノ區域ニ從フ者之ヲ軍管徵兵區トス軍管ニ包轄スル師管ノ區域ニ從フ者之ヲ師管徵兵區トシ師管ニ包轄スル旅管ノ區域ニ從フ者之ヲ旅管徵兵區トシ旅管ニ包轄スル聯隊區域ニ從フ者之ヲ聯隊徵兵區トシ聯隊區域ニ包轄スル大隊區域ニ從フ者之ヲ大隊徵兵區トシ大隊區域ニ包轄スル中隊區域ニ從フ者之ヲ中隊徵兵區トス

但旅管以下ノ徵兵區ハ現今未ク之ヲ設置セズ故ニ姑ク使府縣ノ管地ニ從ヒ之ヲ使府縣徵兵區ト

第十條 使府縣徵兵區ハ一使府縣ヲ一徵兵區ト爲ス
ト雖モ其管地兩師管ニ跨ル者ハ每師管ニ一徵兵區
ヲ設置スル者トス

第十一條 第七軍管ノ徵兵ハ未タ全部ニ行ハサルヲ
以テ姑ク之ヲ第二軍管ノ管轄ニ屬ス

第三章 徵兵官員及ヒ其職掌

第十二條 徵兵使

陸軍佐官一人之ニ任ス使府縣ニ出張シ使府縣徵兵
事務長ト議シ徵兵ノ事務ヲ掌ル

但時宜ニ由テハ副使ヲ遣シ代理セシム

第十三條 徵兵副使

陸軍尉官ヲ以テ之ニ任ス人員ハ概テ一師管徵兵區

ニ二人或ハ三人トス正使ヲ佐ケ使府縣徵兵事務官
及ヒ徵兵副醫官ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行シ徵兵檢
査抽籤等ノ事務ヲ掌ル

第十四條 徵兵醫官

陸軍少醫一人之ニ任ス徵兵使ニ從ヒ兵丁ノ身材骨
格兵役ニ適スルヤ否ヲ検査スルヲ掌ル

第十五條 徵兵副醫官

陸軍少醫副以下試補以上ヲ以テ之ニ任ス人員ハ概
テ一師管徵兵區ニ三人或ハ四人トシ徵兵副使ト共
ニ徵兵検査所ヲ巡行ス職掌徵兵醫官ニ同シ

第十六條 徵兵事務官

後備軍使府縣駐在官一人之ニ任ス使府縣徵兵事務
官ト共出郡區ヲ巡行シ徵兵下検査ノ事ヲ掌リ又徵

兵署ニ出頭シ同署ノ事務ヲ補助ス

第十七條 徵兵書記
陸軍下士或ハ軍属十等以下十七等迄ノ者ヲ以テ之ニ任ス人員ハ二人或ハ三人トス徵兵使ノ諸記録ヲ掌ル

第十八條 使府縣徵兵事務長

地方長官或ハ書記官ノ内一人之ニ任ス管内徵兵ノ事務ヲ掌ル

第十九條 使府縣徵兵事務官

使府縣属官ヲ以テ之ニ任スルハ概テ徵兵副使ノ數ニ準テ徵兵副使ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行シ使府縣徵兵事務長ノ職掌ヲ補助シ又徵兵事務官ト共ニ郡區ヲ巡行シ徵兵下検査ノ事ヲ掌ル

第二十條 郡區徵兵事務官

郡區長ヲ以テ之ニ任ス人員ハ一郡區ニ一人トス徵兵ノ事ニ付キ公文ヲ布達シ民情ヲ上申シ又其郡區内徵兵取調ノ事ヲ掌ル

但郡區長已ムヲ得サル事故アルモハ郡區書記ヲ以テ代理セシム

第二十一條 地方徵兵醫員

地方長官ノ撰テ以テ之ヲ命ス人員ハ概テ徵兵八十八名乃至百名ニ一人トス徵兵身体ノ下検査ヲナシ又徵兵醫官ノ指揮ニ從ヒ検査ノ事件ヲ記録ス

第二十二條 筆主

地方長官ノ撰テ以テ之ヲ命ス人員ハ一検査所ニ二人トス検査抽籤等ノ件々ヲ記録シ又下検査所筆記

第二十三條 徵兵使々府縣徵兵事務長及ヒ徵兵醫官
 使府縣徵兵事務官等ハ分派シテ各徵兵検査所ヲ巡
 行スル者トス

第二十四條 徵兵使巡行ハ二月十五日ヨリ始メ第三
 章中ニ掲グル所ノ陸軍官員一行トナリ使府縣ニ出
 張シ地方ノ諸官ト合議シ便宜ノ地ニ於テ徵兵署ヲ
 開設シ總テ徵兵ニ關スル事務ヲ管理シ四月十日ヲ
 以テ復命スル者トス

第二十五條 徵兵使ハ使府縣ヨリ鎮臺ニ出シタル徵
 集名簿ヲ點檢シ其使府縣ノ徵兵年齡相當ノ人員ニ
 應シ本年徵集スルべき常備補充ノ人員ヲ配當シ又除

役免役等ノ箇狀書ヲ調査ス

第二十六條 徵兵諸官ハ本年ノ徵兵事務竣シハ悉ク
 其職ヲ解ク者トス

第四章 除役免役及ヒ徵集猶豫

第二十七條 左ニ掲グル者ハ終身兵役ヲ除ス

第一項 癱疾又ハ不具等ニシテ陸軍醫官検査規則
 ニ照シ兵役ニ堪ユヘカラサル徵候アル者
 第二項 懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上實
 決ノ刑ニ處セラレタル者

第二十八條 左ニ掲グル者ハ國民軍ノ外兵役ヲ免ス
 第一項 戸主

但徵兵年齡以前ニ分家シ又ハ新タニ分
 家シタル女戸主ニ入婿シ或ハ絶家ヲ再

與シ及ヒ年齡五十歲未滿ノ者隱居シ養子又ハ相續人ニシテ其跡ヲ續キタル戶主ハ此限ニ非ス

第二項 猶子嗣子猶孫承孫

但姉妹ノ有無ヲ問ハス

第三項

年齡五十歲以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

但徵兵年齡以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ

分家シ或ハ五十歲未滿ノ者ノ養子本家

ヲ以テ己ムヲ得サトシ又ハ絶家ヲ再興

シ或ハ新タニ分家シタル女戶主ニ入婿

シ其他ノ子孫ヲ以テ徵兵年齡以前ニ更

ニ定メタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ此限ニ

非ス

第四項

年齡五十歲以上ニシテ嗣子ナキ者ノ養子

子嗣或ハ相續人

但隱居後別家シテ特ニ定メタル嗣子或

ハ相續人ハ此限ニ非ス

第五項

年齡五十歲未滿ト雖ヒ癡疾又ハ不具等ニ

シテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子承祖

ノ孫及ヒ養子子嗣或ハ相續人

第六項

官吏判任以上及ヒ教導職試補以上并コ戸長

第七項

府縣會ノ議長副議長及ヒ議員

第八項

公立學校教員及ヒ文部省所轄并ニ其他省

使ニ屬スル官立學校教員

第二十九條

左ニ掲クル者ハ平時ニ於テ兵役ヲ免ス

第一項

年齡五十歲未滿ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

但徵兵年齡以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ分家シ或ハ五十歳未滿ノ者ノ養子(本家ヲ以テ除ク)トシ又ハ他家ヲ再興シ或ハ新タニ分家シタル女戸主ニ入婚シ其他ノ子孫ヲ以テ徵兵年齡以前ニ更ニ定メタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ此限ニ非ス

第二項 陸海軍生徒并ニ海軍兵器局及ヒ造船所定雇職工

第三項 陸海軍常備在役中死没又ハ公務ニ因リ疾病或ハ傷病ヲ受ケ退隱セシ者ノ兄或ハ弟一人

但豫備軍又ハ後備軍服役中公務ニ起因

シタル疾病死没モ亦此例ニ準ス

第四項 醫術開業免狀ヲ所持スル者

第五項 公立使府縣ノ設立ニ係ル者ニ於テ卒業ノ者

於テ卒業ノ者

第六項 公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ卒業

ノ者

第七項 文部省所轄官立學校及ヒ其他省使ニ屬スル官立學校ニ於テ卒業ノ者

但官立師範學校附屬小學校ノ生徒ハ此限ニ非ス

第八項 外國ニ留學シテニケ年以上ノ學科ヲ終リタル證書ヲ所持スル者

第九項 海員試験免狀規則ニ遵ヒ船長運轉手及ヒ

第十項

機關手ノ免狀ヲ所持スル者
海員雇入雇止規則ニ遵ヒ三年以上海上ニ
在テ水火夫ノ業ヲ執リタルヲ証明スル
者

第三十條

左ニ掲クル者ハ平時ニ於テ一ケ年ヲ限リ
徵集ヲ猶豫スヘシ

第一項

海軍兵員ト爲ラント志願スル者

第二項

兄弟同時ニ徵兵ニ當ル者偶數ハ其半數奇
數ハ其寡數ハ例ニハ三人他皆之ハ一人五人

第三項

陸海軍常備在役中ノ下士卒ノ兄或ハ弟一
人

第四項

陸海軍生徒ノ兄或ハ弟一人
但本條第二項乃至第四項ノ場合ニ於テ

其兄或ハ弟ノ中一人不合格ナルキハ此
例ニアラス

第五項

父及ヒ兄或ハ父ナクシテ兄失踪又ハ癡疾
不具等ニテ産業ヲ營ムコト能ハス本人ヲ要
セサレハ一家ノ生計ヲ失フ者

第六項

文部省所轄并ニ其他省使ニ屬スル官立學
校及ヒ公立師範學校ニ於テ修業一ケ年ノ
課程ヲ卒リタル以上ノ生徒

第七項

公立中學校及ヒ公立專門學校ニ於テ修業
三ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒

第八項

學術修業又ハ商用等ニテ外國ヘ寄留スル
者

第九項

身体未ク定尺ニ滿タズ又ハ疾病中或ハ病

後ノ故ヲ以テ仍ホ未ダ勞役ニ堪ユルヲ能ハサル者

第十項 刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第三十一條 官省院使府縣準官吏御用掛御雇等ハ之ヲ免役セスト雖ヒ餘人ヲ以テ代フヘカラサル事務ヲ奉スル者ノ如キハ特ニ太政官ニ具狀シテ裁決ヲ請フヘシ

但諸省院使府縣雇入外國人ニ附屬シ官費ヲ以テ枝藝傳習中ノ者亦本條ニ準スヘシ

第三十二條 第二十八條第一項乃至第六項第八項ニ當ル者並ニ第二十九條第一項第二項第四項第九項第三十一條ニ當ル者常備年期ノ第三年検査時限ニ至ル迄ニ其名稱ヲ罷メタル者ハ更ニ徵集ニ應セシムルモノトス

第三十三條 第二十八條第四項第六項第八項第二十九條第四項乃至第十項及ヒ第三十條第六項第七項ニ當ル者ト雖モ第六十一條ニ示シタル徵兵各自届出期限ヲ過キ即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ免役又ハ猶豫ノ限ニ非ス

第三十四條 第三十條ニ當リ一ケ年間ヲ限リ徵集ヲ猶豫スヘキ者及ヒ第四十一條第四十二條第五十六條但書ニ當リ翌年廻シニスヘキ者次年ニ至リ猶豫條ニ當ルキハ又之ヲ猶豫若シハ翌年廻シニスヘシ而シテ終ニ常備年期ノ第三年検査時限ニ至リ猶豫該條ニ當ルキハ平時ニ於テ之ヲ免役スヘシ

第三十五條 常備年期間第二十八條第一項乃至第六

項第八項并ニ第二十九條第一項第二項第四項第九項第三十條第三十一條第四十一條第四十二條第五十六條ノ但書ニ交互該當スルモノハ第三十四條ノ例ニ準ス

但第三年ノ検査時限ニ於テ第二十八條第一項乃至第六項第八項ニ該ル者ハ國民軍ノ外兵役ヲ免ス

第三十六條 平時免役ニ属シ第四十九條及ヒ第五十一條但書ニ當ル者ハ第一豫備徵兵ト爲シ第二十九條第三十四條ニ當ル者ハ第二豫備徵兵ト爲シ各年齢三十歳迄ハ戰時或ハ非常ノ事故アル時ニ當リ後備軍ヲ召集シ尙兵員ヲ要スル時ハ其順序ニ從ヒ臨時召集シテ隊伍ニ編制シ或ハ輜重運輸ノ役ニ供ス

ルヲアルヘシ

第五章 徵兵検査

第三十七條 徵兵検査定日ハ前以テ徵兵使ヨリ使府縣ニ通報シ日割ヲ以テ一日幾人ト定メ戸長之ヲ引纏メ出ヘシ

第三十八條 徵兵検査ノ時節ニ至レハ使府縣廳ヨリ左式ノ野紙ヲ戸長ニ渡シ戸長ハ検査ヲ受クヘキ者ノ戸籍ニ基キ朱書ニ示シタル如ク本人ノ姓名産國住所誕生ノ年月日及ヒ戸主タル者ノ名并ニ氏神宗門其他同戸籍ノ父母祖父母兄弟妻子等ヲ記載シ之ヲ人別表トシ徵兵検査ノ時差出スヘシ

